イスラームと現代科学の発見

預言者ムハンマドﷺの預言とその教え



ムハンマド・アルサイエド著

イスラームと現代科学の発見

預言者ムハンマドﷺの預言とその教え

﴿سَنُرِيهِمْ ءَايَٰتِنَا فِى ٱلْـَٔافَاقِ وَفِىٓ أَنفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ ٱلْحَقُّ ۗ
أَوَلَمْ يَكْفِ بِرَبِّكَ أَنَّهُۥ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ شَهِيدٌ ﴿٥٣﴾﴾

「我は我が印を天と地の間において彼ら（不信仰者）自身の中において示して見せる。彼らにそれ（クルアーン）が真理であることが明らかになるように。本当にあなたの主はあらゆることの立証者であられる。このことだけでも十分ではないか？」

1400 年も前の時代からクルアーンとハディースで述べられてはいたが、ようやく現代になって証明され始めた驚くべき科学的真実の数々。これらを追いながら預言者ムハンマドﷺの預言とその教えをひもといていく。

ムハンマド・アルサイエド著

菅野　啓太　訳

ヤスミーン・ムハンマド　校閲

目次

◈ ◈ ◈

序

万有の主アッラーに讃えあれ、天と地を創造し、光と闇を創られた御方。アッラーの他に神はなく、預言者ムハンマドﷺ（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ。以下省略）はアッラーのしもべであり、使徒であることを証言する。また預言者の家族や一族、教友たち、そして彼の導きとその慣行（スンナ）に従い、審判の日までその跡を歩む者たちに祝福と平安がありますように。

イスラームの教えとメッセージ、導きを深く考えてみるなら、それらには清純な天性（本能）が受け入れ、知的な精神が深く感じ、歪みのない理性が嘱望することとの、見事な統合と調和を見出せるのである。

私が本稿で光を当てたいこととは、科学と学問の面からのイスラームの導きである。それは、実生活のあらゆる面で人々が向上するのための、ひいては共同体の興隆のための真実の導きである、と、読者に明示することである。イスラームが現代科学の解明した真実、即ち、あらゆる分野の科学と学問の素晴らしい真実を、誰もそのようなことを知り得なかったかった1400年も前に、実に西洋科学に先んじて、易しく簡単に指摘していたことは、預言者ムハンマドﷺがアッラーの使徒であることの確かな証拠でもある。

アッラーのご加護とその助力により本書を世に送る。

アッラーがこの善行を受け入れ、人々がイスラームを受け入れ、この布教がその創造の良い産物とならんことを。アッラーこそはその後見人であり、それが可能な全知全能の御方であられる。

イスラームの書

アッラー（アラビア語で神の意）は、その必要性が高まるたび、人々に預言者や使徒を遣わし、人々が創造主の示した正しい道から逸れないよう警告した。そして最後の預言者としてムハンマド ﷺ を遣わして人類にイスラームをもたらした。イスラームは人間本来の本性に則った教えであり、唯一の神（アッラー）を崇拝することを説いている。

イスラームとは、至高のアッラーに服従、恭順し、アッラーの命に従順である、という意味である。

イスラームは、本来人間が兼ね備えている清純で善良な本性（天性）と優れた理性が首肯するすべてのこと、即ち、唯一の神であり創造主であるアッラーへの曇りなき信仰心、その預言者と使徒たちへの敬愛、正しい導きと公平な法に対する尊敬、寛大な行いと分別ある付き合い方、日常生活に必要な知識・教養・能力へと導くものでる。

またイスラームは、もともと平和とそれぞれの責任の全う、契約の遵守、宗教を問わず人々に良く接し、善い行いをするよう導くものであり、今日我々が見るような過激主義者たち、テロといったイスラームを騙る者たちのものとはかけ離れた教えである。イスラームを疎む者たちや、故意に真実を捻じ曲げ、イスラームのイメージを醜くしている者たちは、自分たちの利益を享受したいがため、イスラームの名を使っているのである。

よって、イスラームによってもたらされた純粋な信仰心と清らかな崇拝行為は、全くこれらの悪質な集団とは相容れないのである。イスラームと

は、アッラーご自身が選ばれた預言者ムハンマド ﷺ とその教友たちの教えに従うことであり、それ以外はイスラームではないのである。現在イスラームが直面している、このようなアッラーの存在を否認し、その教えの本質を覆い隠すような諸問題に対して、アッラーは、例えそうした邪悪な不信仰者たちがいくら嫌悪しようとも、イスラームに光りを与え、いずれイスラームの寛大さが明確に現れ、純粋な信仰心と清らかな崇拝行為、公正なイスラーム法、善を勧め、悪を禁ずるアッラーの教えが我々に届くことだろう。アッラーはイスラームを完全なる宗教として下し、預言者ムハンマド ﷺ を最後の預言者として下された。

﴿.... يَأْمُرُهُم بِٱلْمَعْرُوفِ وَيَنْهَىٰهُمْ عَنِ ٱلْمُنكَرِ وَيُحِلُّ لَهُمُ ٱلطَّيِّبَٰتِ

وَيُحَرِّمُ عَلَيْهِمُ ٱلْخَبَٰٓئِثَ .... ﴿١٥٧﴾﴾

「・・正義を彼らに命じ、邪悪を彼らに禁じ、また一切の善を合法とし、悪い汚れたものを禁忌とした、・・」（7.高壁：157）

◈ ◈ ◈

イスラームと唯一神（＝アッラー）信仰への導き

イスラームとはタウヒード（万物は唯一神、即ちアッラーに帰すという考え方）の宗教であり、全てを何もない状態、無から創造なされたアッラーの教えである。

もし、不信仰な者たちや異端の者たちが至高のアッラーの存在を認めず、「目に見えないものに対し信仰心を抱くことはない、神を見た人はいないのだから、神など存在するはずがない」と言うのなら、以下のように反論できるだろう。

「あなたは理性や魂を見たことはない。しかし、あなたはそれらの存在を示すような様々な影響を見ること、知ることでそれらの存在を信じることができる。あなたが重力の存在も信じているように。これ以外にも沢山の例を挙げることができるだろう。万物の創造主の存在を示す様々な印やその影響力、その唯一性、全能性、完璧なまでの英知、優れた特性についても同様である。これらは数えきれない程存在する。」と。

このことを現実のことに照らし合わせて見れば、こんな風に説明できるかも知れない：

人間とは、外見上の特徴とその内部に隠された組織的構造において１つの機械のようなものである。それはどんな機械よりもずっと複雑にできている。しかし、例えそれがどんなに単純な機械であっても、その機械を正確に正しく使いこなす為には、説明書や解説書のようなものが必要になってくるであろう。それは、その機械の製造者のものである。（何故ならその機械

を造った本人こそが他の誰よりもその機械に詳しい筈だからである）

つまり、そこには機械だけでなく、それを製造した製造者が必ず居るはずである。（製造者を視覚で捉えることは無理かも知れないが）その製造者によるその機械の説明書または解説書によって、その機械は正確に作動するのである。

機械がそうならば、より複雑にできている人間はどうであろうか？同じような説明書は必要ないであろうか？規律・法則を与え、その人生において秩序だった生活の規範になるような、そんな説明書・解説書は必要ないであろうか？もしそうなら、全てを通暁なされる創造主の存在が必要になって来るのではないか？

答：然り。類いまれなる創造主の存在を再確認させるような教えが必要である。それはアッラー（神、創造主：ムスリムにとって神と創造主は同義）に他ならない。アッラーは最後の啓典として、審判の日まで全人類を導き、現世で生活の指針となる聖クルアーンを下された。

よって人間は、この創造主、製造者による説明書・解説書なしでは、規律正しい生活は望めず、その生活・行動様式において、まるで草原に住む肉食動物のように生きることになってしまう。

人間を他人との関係において律するものは何であろうか？人間を虚偽・欺瞞・背信ではなく誠実・信頼によって行動させるものは何であろうか？もし、これらの虚偽・欺瞞・背信行為が全くの個人的な社会的地位の向上や何かの報奨の獲得、単なる自己実現が目的であるならば、こういった特定の解説書がなかったり、或いは、全てを無から創造し、審判の日には全人類を復活させ、各々の現世の行いの判決を下すような唯一無二の存在なしに現世

が終わり、善行、悪行に対して公正な判決がないとするならば、現世での各人の行いに規律、倫理道徳を与えるものは何であろうか？

イスラームでは、人間が現世において矛盾に陥ることのないよう、最後の啓典として下されたクルアーンを信仰することによって、各個人と社会との関係、各個人と創造主アッラーとの関係を正しい方向に導いている。

イスラームでは創造主である神は唯一無二の存在である。もし、ここに神が複数存在したならば、それらの言説に様々な差異が生じ、争いに発展したかもしれない。神々と被造物とが対立し、腐敗が天と地にひろがったであろう。よって神は唯一無二の存在でなければならないし、それはイスラームではアッラーに他ならない。

更に、人間の清純な天性と賢明な理性は唯一無二の神しか受け入れられない筈である。唯一の神に向かって祈願し、その命令に従い、宗教上の崇拝行為を行う。そうでなければしもべである人間は神々のそれぞれ異なる命令を前にして、一体誰に従えというのだろうか？誰がこの不幸なしもべの祈願に答えられるというのだろうか？もし、神々のうち 1 柱の神の命令に従うことが、別の神からの命令には背いたことになった場合、それに対しての裁定はないのだろうか？

よってイスラームの清純な天性と賢明な理性に適った教えは、唯一の創造主の教えであり、至高至大のアッラーの教えである。アッラーと同一の者が存在したり、或いは親子関係が存在するということもない。彼こそは至高至大な神アッラーであり、生みもしなければ生まれもしないのである。

人間の清純な天性と賢明な理性は、神に随伴者がいることは受け入れられない。もしそのような思想を受け入れるならば、それは唯一無二である

筈の神が誰かの助けが必要で、全知全能の神以外の存在を想像させるからである。もし神に子供がいるならば、その子供が大人になれば親の性質を受け継ぐのであろうか？（これは明らかに唯一無二の神の存在の否定とみなされるだろう）その他にも、次のような疑問を抱かざるをえない。

もし神に子供がいるとするならば、２人目、３人目の存在を否定することができるだろうか？彼らは親の性質を受け継ぎ、将来はその数が幾つにもなるのだろうか？或いは、本当に第２子、第３子をもうけ、「聖霊」のような、人間とはその性質を異にする被造物を生み出し、神の特質を受け継ぎ、人間と聖霊よりも優れた被造物となるのであろうか？

その神の特質を受け継いだ子供の子孫が、その親の神聖さ（神の特質）を受け継がないことがあるだろうか？そうであれば２人目の子供、３人目の子供もまた神の特質を受け継いでいく筈である。だが果たして本当にそうであろうか？

間違いなく、このような考え方は多数の神の存在を認めることになり、多神崇拝に向かうだろう。それは人間の本性・理性が認めないものである。

更に、もし神が（キリスト教徒が主張するように）人間の持つ本性と同じ本性を兼ね備えているのだとしたら、神はそれ以前に人間の持つ本性とは異なった特質（例えば天使が持つような高尚な特質）を兼ね備えているかも知れない、或いはもしかしたら他の被造物が持つ特質を現在や未来において持ち得るかも知れない、それを否定できるだろうか？

神に人間性を付与する形で様々な神を生み出し、3 つの形態であると言っておきながら最終的に 1 つだとする（三位一体：神は 3 つの属性を持ち、神の子として人間の本性も兼ね備えている、と主張するキリスト教徒の

ように)、このような偽りを1つの思想として受け入れることは神が 4 人、5 人、6 人・・・存在すると主張するのと何ら変わることがない。そして最終的にこれらは唯一無二の神である、と主張されたなら、これは人間の理性にも反する偽りに過ぎない。このような思想は神の唯一性（タウヒード）に相容れないし、果ては、神は1人ではない様々な神がいる、といった人間の本性と理性が受け入れがたい結論に辿り着くだろう。

初めにクルアーンが言及した理性、そして預言者ムハンマド ﷺ がウンマ(イスラーム共同体)に対して行った命令は、神の唯一性(タウヒード)を信ずることであった。クルアーンにも明記されている通りである。

﴿فَٱعۡلَمۡ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا ٱللَّهُ .... ١٩﴾

「それゆえ知れ、アッラーのほかに神はないと。」

（47.ムハンマド：19）

﴿قُلۡ هُوَ ٱللَّهُ أَحَدٌ ١ ٱللَّهُ ٱلصَّمَدُ ٢ لَمۡ يَلِدۡ وَلَمۡ يُولَدۡ ٣
وَلَمۡ يَكُن لَّهُۥ كُفُوًا أَحَدُۢ ٤﴾

「言え、『それはアッラー、唯一なる御方。（1）アッラーは、自存され、（2）お産みなさらないし、お産まれになったのでもない。（3）彼に比べ得る何者もない。（4）」（112.純正：1～4）

よって、イスラームは人間の穢れ無き理性に反しない宗教である。唯一無二の創造主アッラーを信仰することは、人間に元々備わっている本性にも反しないのである。

イスラームと預言者・使徒への信仰、そして彼らの地位回復について

イスラームは、全ての預言者と使徒たちへの信仰心と共にある。アッラーは彼らに高い地位を与えられたが、それは、神の命じることと禁ずることなど、立法や創造主について下した啓示を人類に伝える為に、至高のアッラーが彼らをお選びになったからである。

ユダヤ教徒が預言者イエス・キリストを姦淫によって生まれた、など、穢い言葉で誹謗していたが、イスラームではそれを正し、イエスの地位を高め、イエス・キリストをアッラーから遣わされた偉大な使徒として見ている。

そしてユダヤ教とキリスト教が、神から遣わされた預言者・使徒たちの多くをその罪や欠点を指摘し非難するのに対し、イスラームでは彼らの欠点、罪を正し、彼らの地位を高めた唯一の宗教である。なぜならアッラー自ら彼らをお選びになり、人々に真実を伝える為にと遣わされたからである。

例えば、ユダヤ教とキリスト教は、預言者アロン（彼の上に平安あれ）を仔牛を拝めたとして（それは仔牛の姿をした石像だった）、また預言者ルート（彼の上に平安あれ）を酒飲み、娘２人を姦淫した者として描写した。これは最も醜い姦淫の１つである。何故なら彼女らは彼にとって結婚を禁じられたもの（マフラム[1]）だからである。このようにユダヤ教徒とキリスト教の預言者たちに対する誹謗中傷は止むところを知らない。

上記のこの２つの宗教は、アッラーの預言者と使徒たちを、その多神崇拝やこれらの大罪により、彼らに敬意を払わなかったばかりか、適切な預

(1) マフラムとは、男性にとって永久的に結婚が禁じられる全ての女性のことである。
例：実の母親、父母方の祖母、実の娘、孫娘、異母姉妹、異父姉妹、等々。

言者たちを遣わさなかったとし、創造主である神さえも非難したのである。

しかし、イスラームでは全ての預言者と使徒たちが、それらの大罪・不信仰・多神崇拝について無実で、誠実な良いお手本として描かれているのを理解するのである。よって我々ムスリムは至高至大なアッラーは完璧で完全なる特性を持ち、適切な預言者と使徒たちを遣わして下さったと信じている。

イスラームこそは全ての預言者と使徒を高く評価する宗教なのである。

◈ ◈ ◈

イスラームと知識への導き

イスラームは人類を、暗闇から光へ、多神崇拝から一神崇拝（タウヒード）へ、不法・圧政・暴虐から公正・正義・善行へ、無知・横暴から信仰・知識の輝きへ、そして生活の全ての面において発展に導くようにと下された。

それは、アッラーから遣わされた最後の預言者であり使徒でもあるムハンマド ﷺ に下された啓示、クルアーンに明記されている。

﴿ٱقْرَأْ بِٱسْمِ رَبِّكَ ٱلَّذِى خَلَقَ ۝١﴾

「読め。創造主・あなたの主の御名において」（96.凝血：１）これはアラビア語の命令形で記され、預言者ムハンマド ﷺ への命令であり、それ故、以降のイスラム共同体（ウンマ）への義務となっている。

そして周知の通り、どんな分野であれ読書こそ科学と知識への唯一の道である。

よって、クルアーンが初めに人々に説くのは、知識の追求である。

クルアーンはまた、知識の追求だけではなく、知識の蓄積をも説いている。クルアーンでは次のように述べられている。

﴿.... وَقُل رَّبِّ زِدْنِى عِلْمًا ۝١١٤﴾

「言え。『わが主よ、我が知識を深め給え』と。」（20.ター・ハー：114）

これもアラビア語の命令形で記され、預言者ムハンマド ﷺ への強制であり、それ故、以降のイスラム共同体（ウンマ）への義務となっている。そして知識の蓄積の為にアッラーに全てを任せ、知り得た知識は自分だけのものにせず、他人にも広めなければならない。これは現世においてムスリム

たちが常に目指す姿勢であり、ハディースでも次のように述べられている。

«.. ومن سلك طريق يلتمس فيه علما سهل الله له طريقا به إلى الجنة»

「知識を求めて歩む者に、アッラーは天国への道を開けられる。」（預言者言行録：ムスリム）

つまり、イスラームでは知識を得ることに（但し、誠実な意図と誠実な目的に限る）、アッラーはご満悦され、彼に天国を用意される。

では、何故イスラームは人々を知識に導くのか？

答：1

﴿ وَيَرَى ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلْعِلْمَ ٱلَّذِىٓ أُنزِلَ إِلَيْكَ مِن رَّبِّكَ هُوَ ٱلْحَقَّ وَيَهْدِىٓ إِلَىٰ صِرَٰطِ ٱلْعَزِيزِ ٱلْحَمِيدِ ۝٦﴾

「そして知識を授かった者達なら、主があなたに下されたものは真理であり、偉力のある、賛美すべき御方（アッラー）の道へと導くものであると分かるだろう。」（34.サバァ：6）

つまり、イスラームの方法で知識を探究し、知識人となり、過度な快楽と性欲を避け、自己を押さえ、誠実な意図を持って生きるならば、クルアーンに書かれた真実の根拠と証拠によって、クルアーンがアッラーから下された真の聖典であり、クルアーンこそが人類を正しい道へ導く書であることが分かるだろう。

答：2　アッラーが仰せられるように

﴿.... إِنَّمَا يَخْشَى ٱللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ ٱلْعُلَمَٰٓؤُاْ... ۝٢٨﴾

「アッラーのしもべたちのうち、知識のある者だけが**彼**を畏れる。・・」

（35.創造者：28）

つまりイスラームが薦めるのは、神への畏怖の念である。それは唯一クルアーンの章句､或いは至高のアッラーの限りない恵みによってのみ可能になるのである。

アッラーから与えられた理性を最大限活用し、クルアーンの章句を読みながら知識を得ることはなんと素晴らしいことだろう｡それは我々人類を創造主への信仰へと導き､彼が創造主であると同時に審判者でもあることをあなた方に教えるだろう。また信仰心を強め、この世の創造主が唯一無二の存在であることを知る。その大いなる力と、完全なる知恵、その知識の広大さ、高貴な特質が明らかになる。そしてアッラーは必ず唯一無二の存在でなければならない。そうでなければ複数の神の間で優劣がうまれ、腐敗が天と地に広がるからである。

また、知識と理性を活用すれば、至高のアッラーへの従順な感情が沸き上がって来るだろう。悪行を避け、罪を犯さず、懲罰を畏れ、アッラーにのみ専心する。そうすれば､必ずやアッラーの約束された天国へと導かれるだろう。

過去にも多くのイスラム教徒（ムスリム）の科学者による、様々な分野での貢献があったし、我々が生きる現代においてもそれは例外ではない。次に紹介する科学者はそうした現代の科学者のうちの一人である。

アフマド・ハサン・ズウェイル博士（1946 年 2 月 26 日生）（アメリカ合衆国カリフォルニア・テクノロジー研究所：化学・物理学者）

エジプト出身の化学者で、フェムト秒化学の業績が認められ 1999 年にノーベル化学賞受賞。超短パルスレーザー技術を用いて､化学反応をフェムト秒単位で見､個々の素反応の遷移状態を解**析できるという**研究法､ポン

プープローブ分光法を創始した。

ここで注意しておきたい点：それは、もしムスリムがイスラームの命ずる知識、学問の追求に専心していないとしたら、それはイスラーム自体への批判には当たらない。寧ろ、我々ムスリム自身の怠慢、緩慢さによるものである。

イスラームはアッラーの命令、導きによってのみ人類を善や良識へと導き、またアッラーが禁じたものによってのみ、人類を倫理道徳、価値観において悪行、退廃、後退から守ることができるのである。

現代科学の発見はどのようにムハンマド ﷺ の書と預言の証拠たり得るか

この質問に対する我々の回答は次の通りである。

我々の信仰の拠り所である、アッラーの啓示によって下されたクルアーンと、預言者ムハンマド ﷺ のハディース（預言者言行録）による実証が可能である。

当時から預言者ムハンマド ﷺ はその清廉さ、誠実さでよく知られており、若い頃から「誠実な人」と呼ばれ、当時ムハンマドの布教と教えに敵対していた無信仰者たち、クライシュ族も例外ではなかったのである。

また 1400 年前に編纂されたクルアーンとハディースには、天文学の分野における数々の言及だけでなく、驚くべきことに当時その分野で知識を持った者は皆無だったにも関わらず、最近になりようやく証明されたような学問分野の知識についても言及がある。当時そのようなことを確かめるのは不可能だったから、一体誰が、どうして、預言者ムハンマド ﷺ にこれらの事実を伝え、当時誰も知る由もなかった知識を伝えたのだろうか？という疑問が思い浮かぶのも当然ではないだろうか。

預言者ムハンマド ﷺ にこのような知識を伝えたのは、勿論その知識を理解し、完全にそれを伝えることのできる者であった筈である。それは天と地を創造し、預言者ムハンマド ﷺ に啓示を下し、彼を最後の預言者として遣わしたアッラーに他ならない。

したがって、現代科学が明らかにした数々の事実は、クルアーンが真実であり預言者ムハンマドが真の預言者であることを証言し、証拠となっていると言えるのである。

クルアーンとハディースに1400年前から示されていた驚くべき科学的真実

現在に至るまでクルアーンとハディースは天と地、山と海、人間・動物・鳥類・植物といった万物の驚くべき真実を示してきた。誰もそのような知識を持ち得なかった1400年も前に。その後、現代の科学技術の発展によってそれらが真実であることが証明された。以下順に見ていくことにしよう。

《空》

（1）アッラーは仰せられる。

﴿فَمَن يُرِدِ ٱللَّهُ أَن يَهْدِيَهُۥ يَشْرَحْ صَدْرَهُۥ لِلْإِسْلَٰمِ ۖ وَمَن يُرِدْ أَن يُضِلَّهُۥ يَجْعَلْ صَدْرَهُۥ ضَيِّقًا حَرَجًا كَأَنَّمَا يَصَّعَّدُ فِى ٱلسَّمَآءِ... ١٢٥﴾

「アッラーが導こうとお望みになった者は、イスラームのためにその胸を開き給い、迷うに任せようとお考えになった者には、まるで天に登ろうとしているかのようにその胸を狭め、苦しめる。」（6.家畜：125）

صَدْرَهُۥ ضَيِّقًا　直訳すれば、胸が狭く、広くない、の意であるが、呼吸がみだれて苦しく、規則正しくない、の意である。

حَرَجًا 酷く窮屈（苦しい）の意である。

يَصَّعَّدُ 難儀しながら登る、の意である。

このクルアーンの節はアッラーの道、そして現世での懲罰について述べられている。それは、まるで天に登ろうとする人が呼吸の苦しさにもがくように、胸を苦しくさせるというのである。

この節では、天に登る人が呼吸困難に陥り胸が苦しくなり、その呼吸

機能が正常に働かないことを、ضَيِّقًا حَرَجًا と يَصَّعَّدُ（単に登る、を表すのは يصعد ヤサアド。ここでは2文字分を足した、その行動の程度が甚だしいときに使う形ヤッサアド：懸命に登る）という語で表している。

そして現代科学が解明したことは、高度が上がるにつれ気圧が下がり、大気圏を上昇するにつれて人は呼吸困難に陥ることが分かっている。

この事実は、クルアーンが 1400 年前にこの節に言及したことと見事に一致している。このことはアラビア語でたったの 3 つの語によって示されているのである。

クルアーンの記述（語彙選択）の何という正確さだろうか。これこそ神の言葉に他ならないのではないか？

*　　*　　*

（2）アッラーは仰せられる。

﴿وَءَايَةٌ لَّهُمُ ٱلَّيۡلُ نَسۡلَخُ مِنۡهُ ٱلنَّهَارَ فَإِذَا هُم مُّظۡلِمُونَ ٣٧ وَٱلشَّمۡسُ تَجۡرِي لِمُسۡتَقَرّٖ لَّهَاۚ ذَٰلِكَ تَقۡدِيرُ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡعَلِيمِ ٣٨ وَٱلۡقَمَرَ قَدَّرۡنَٰهُ مَنَازِلَ حَتَّىٰ عَادَ كَٱلۡعُرۡجُونِ ٱلۡقَدِيمِ ٣٩ لَا ٱلشَّمۡسُ يَنۢبَغِي لَهَآ أَن تُدۡرِكَ ٱلۡقَمَرَ وَلَا ٱلَّيۡلُ سَابِقُ ٱلنَّهَارِۚ وَكُلّٞ فِي فَلَكٖ يَسۡبَحُونَ ٤٠﴾

「また、彼らへの印には夜がある。われはそこから昼を退かせると、途端に、彼らは闇に包まれた（37）。また太陽は、規則正しく運行する。こうしたことも全知全能の御方の摂理である（38）。また月には天宮を振り分けた。月が（新月から）ナツメヤシの老いた葉柄のように（下弦の月になって）戻ってくる（まで）。（39）太陽に月が追いつくことはならず、夜が昼と先を争うことはできない。それぞれがそれぞれのの軌道の中を泳ぐ（運行

する）のである。（40）」（36.ヤー・スィーン：37～40）

فَلَكٍ は、ほぼ円形の航路の意である。

يَسْبَحُونَ は、宇宙空間をまるで水の中を泳ぐようにスムーズに進むという意味である。

これらの節で最初で述べられているのは、この地上において昼と夜が規則正しく繰り返す様子である。またその次の節では太陽について、またその後の節では月、そして最後の節で太陽と月、昼と夜（地球のこと）全部について述べられている。―この يَسْبَحُونَ という動詞は３つ以上の複数形で、太陽・月・地球を表しているが、太陽と月だけの話なら双数形 يسبحان を使うところである。しかし、ここの活用形は３つ以上の複数を表す يَسْبَحُونَ になっているので、太陽・月・地球について話しているのが分かる。―

そのあと、下記の学術的で素晴らしい太陽・月・地球に関する事実をも指摘している。

１－天体の公転：「太陽・月・地球、全てはほぼ円形の軌道を泳ぐ」との天体の運行についての言及を通して、天体が驚くべき正確性と規則性を持って、まるで水の中を滑るようにスムースに運行していること。

２－地球の軌道の形：楕円軌道上を運行しているということ。

このような事実は現代になってから発見されたことであるにも関わらず、クルアーンでは既に比喩的な方法で 1400 年前に述べられていたのである。

クルアーンでは、まだ無知な状態にあった人々の心を動揺させないように、解りやすい「昼と夜」という表現を使ってこの事実を包括的に、軽く指摘するにとどめている。

クルアーンとは何と偉大な、何と深い智恵と修辞を駆使したものであろうか。

(3) アッラーは仰せられる。

﴿وَلَوۡ فَتَحۡنَا عَلَيۡهِم بَابٗا مِّنَ ٱلسَّمَآءِ فَظَلُّواْ فِيهِ يَعۡرُجُونَ ١٤ لَقَالُوٓاْ إِنَّمَا سُكِّرَتۡ أَبۡصَٰرُنَا
بَلۡ نَحۡنُ قَوۡمٞ مَّسۡحُورُونَ ١٥﴾

「たとえ、**我**が彼らの上に天の扉を開き、彼らを登らせることになったとしても(14)、彼らは必ず言うであろう。「我らの目は眩んでしまった。いや、我らは魔法をかけられている(15)。」(15.アル＝ヒジュル：14〜15)

فَظَلُّواْ は、〜になった（原意は昼になった）の意。（夜になる、は باتを使う）

يَعۡرُجُونَ は、放物線を描いて（彼らが）天に登るの意である。العرجون القديم これは萎れて黄色くなり、傾いたナツメヤシの葉柄の意である。ちなみに預言者ムハンマドﷺが天に登り、一夜でエルサレムとメッカを往復したことをミーラージュ المعراج と言う。

سُكِّرَتۡ أَبۡصَٰرُنَا は、視界を塞がれた（盲目になった）の意である。

مَّسۡحُورُونَ は魔法をかけられた、の意である。

このクルアーンの節では、仮に天に登ることが許されたとして、宇宙に行く際に起こることやそこでの物の動きは、初めて天に昇った者にとっていかに驚愕の事実であるのかが、 وَلَوۡ という単語によって示され、またそれが例え過去に起きたことがなかったとしても、真に起こり得る可能性があることを正確で適切な語によって表している。

この節の大要は、例え頑迷で傲慢な者たちがアッラーの啓典の意味を

知るために天に昇ることを許されたとしても、彼らは信じもしないし、ましては信仰心など持つこともない、逆に彼ら自身の目で見たことを否定し、魔法をかけられたに違いないと言うであろう、と伝えている。

このたった一行で表せる２節は、他にも、現代になりようやく証明された数々の真実を表しており、それらについてもここで触れておきたい。

１－天には幾つかの特定の扉があってそれを通らずには天に昇ることができないということである。これは最近の科学が発見したことだが、もし如何なる宇宙飛行士がこれらの扉以外から天への上昇を試みたらすぐさま衝突し、その機体は燃焼してしまうだろう。

２－天空での動きはカーブがかかったようになる（放物線的になる）ということである。これも最近の科学が発見したことで、重力が働かない天上での動き方と地上での動き方は異なるということである。

３－既にこのクルアーンの最初の引用でも述べられているように、天に昇る際の動きは ظَلُّوا「（昼）になった」と言う語で表され、次にこれは暗い夜ではなく昼間行われたことを示している。その後２つ目の句で大気圏を超えて天に昇った後、その暗闇が原因で視界が塞がり何も見えないと述べている。これはクルアーンによる驚くべき真理の描写で、人間が天に昇り、大気圏を超えてしまうと、そこが真っ暗闇であるため何も見ることができなくなってしまう。そして視力が失われたのかと錯覚してしまう。何故なら今までは完全なる光の世界だったからである。現代科学の発見により証明されたのは、夜が地球をすっぽり覆ってしまうという事実である。地球だけでなく恒星や他の天体や星雲すらも覆ってしまうのである。

４－それだけではなく、天に昇り大気圏を超えた人間が見るものは、

クルアーンで مَّسْحُورُونَ「魔法をかけられた」という語を使っているように、بَلْ نَحْنُ قَوْمٌ مَّسْحُورُونَ「いや、我らは魔法をかけられてしまった」ような光景なのである。即ち、初めて天に昇る人間がこのように思うのは、昼間に彼らは天に登ったが、登った後、あたりが真っ暗闇になったのに驚き、自分の視覚が失われたかと思った時､遠くから細々と弱い光を投げかけてくる星々によって､自分たちの目はまだ見えていると確認させられるということが起こるからである。それ故、そのような困惑した状況を説明しようにも当時の人々にとって驚き以外の何物でもなく､魔法をかけられたとしか説明がつかないことだったのである。

現代科学によって発見されたこれらの状況を正にクルアーンはたったの一行で表しているのである。

それ故、我々はクルアーンが現代科学で初めて知り得たような事実を、そのような知識も情報もなかった1400年前から示していたと理解できるのである。

クルアーンの記述の何と正確で雄弁なこと。何と卓越した美と革新性であろうか。

これこそはクルアーンが預言者ムハンマドﷺの啓示を通して全世界・全時代・全人類に送られた真の天与の啓典であることの証明であり、ムハンマドが最後の預言者である証明ではないだろうか。

*　*　*

（4）アッラーは仰せられる。

﴿وَٱلسَّمَآءَ بَنَيۡنَٰهَا بِأَيۡيْدٖ وَإِنَّا لَمُوسِعُونَ ٤٧﴾

「**我**は偉力をもって天を打ち建て、果しない広がりにした。」

（51. 撒き散らすもの：47）

وَٱلسَّمَآءَ は地上を覆う上空の空間の意である。

بِأَيۡيْدٖ は〜の力で、正確に、の意である。

لَمُوسِعُونَ は、天を広げようと切にに望み、押し広げ続ける（者）の意である。

この章句は天の創造の崇高さ、素晴らしさについて言及しており、またそれはアッラーによって創造され、その後広げられただけでなく、これからもそれは広がり続けることを述べている。

現代科学は、単に星々だけでなく、全ての星雲が約 30 万㌖/h のスピードで広がっていることを解明した。科学者たちが幾つかのグループの星は色が赤色に変化しており、宇宙が常に広がっていることを証明してみせたのである。これこそ正にクルアーンが 1400 年前から述べ伝えていることに一致するが、これは現代、観測技術が発達して初めて解明できた事実なのである。クルアーンは一体どこまで我々を導いてくれるのだろうか？

*　　　*　　　*

（5）アッラーは仰せられる。

﴿أَوَلَمۡ يَرَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ أَنَّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ كَانَتَا رَتۡقٗا فَفَتَقۡنَٰهُمَاۖ وَجَعَلۡنَا مِنَ ٱلۡمَآءِ كُلَّ شَيۡءٍ حَيٍّۚ أَفَلَا يُؤۡمِنُونَ ٣٠﴾

「また信仰しない者たちは分からないのか、天と地は一緒に合わさっ

ていたが、**我**はそれを分けた。そして水から一切の生きものを創ったのである。彼らはそれでも信仰しないのか。」（21. 預言者たち：30）

كَانَتَا رَتْقًا　は、２つのものが合わさっていた、即ち、天と大地はくっついていた。の意である。

فَفَتَقْنَٰهُمَا　は、(アッラー)が（くっついていた天と大地）を２つに分けた、の意である。

このクルアーンの節はアッラーの天と地の創造とその始まりについて述べているが、アッラーの創造物の美しさや、今見えている宇宙がどの様に造られたのか、ということへの驚嘆の念を引き起こし、創造主について知り、その偉大さと無限の能力を信仰することへ誘うものである。

クルアーンによると、全ての始まりの時に、天と地は１つであったが、その後アッラーが２つに分けたと伝えているのである。

ビッグバン理論は現在主流の学説の一つだが、それはこの宇宙が継続的に広がっている、ということが分かってから唱えられた理論である。

ビッグバン理論では、今日まで宇宙が広がってきたとしたなら、必ずやその始まりは１つだったはずで、今現在も中心とは反対方向に向かって広がり続、逆に辿れば、宇宙の始まりは１つだったというのである。

物理学者たちによれば、これらの今ある星雲は（クルアーンに書かれているようにくっついていて）全部一つの塊にまとまっていた。質量が大きければ大きいほどその重力は強まるため、その塊の質量は大変なものになっていたが、それが最終的に原子よりも小さな最小の１カ所に集まって高温度・高密度状態になり爆発した。それは巨大なエネルギーを伴って放射状に膨張していき、次第に温度が下がって、現在の形になっていった、と。正に

クルアーンで「天と地はとじ合わさっていたが、我がそれらを二つに分けた。」と述べられているようにビッグバン理論と一致するのが分かるだろう。

何とクルアーンの厳密な用語・比喩であろうか。疑いなくクルアーンが真実アッラーから最後の預言者ムハンマドへの啓示であることを証明するものである。

*　　*　　*

(6) アッラーは仰せられる。

﴿ثُمَّ ٱسْتَوَىٰٓ إِلَى ٱلسَّمَآءِ وَهِىَ دُخَانٌ...﴾ ١١

「それから、煙であった天も（同様になされ）」

（41.フッスィラ(解明)：11）

この句では天はアッラーによって創造され、初めはまるで煙のようだったと述べられている。

現代科学の力で、アッラーの宇宙創造の手始めであるビッグバン（大爆発）の結果生じた煙の撮影がかなったが、それは遥か彼方、宇宙の端の方に見つかったもので、まさに最初の頃の天は煙から成っていたと、アッラーが上記の節で述べられた通りだったのである。

なんとクルアーンの正確な記述だろう。

それはクルアーンがアッラーから預言者ムハンマドﷺに下された啓典であり、ムハンマドが神の使徒であり、最後の預言者であることの証明に他ならない。

*　　*　　*

(7) アッラーは仰せられる。

﴿فَلَآ أُقۡسِمُ بِمَوَٰقِعِ ٱلنُّجُومِ ٧٥ وَإِنَّهُۥ لَقَسَمٞ لَّوۡ تَعۡلَمُونَ عَظِيمٌ ٧٦﴾

「それゆえ、星々の場所にかけて誓う(75)。それはまことに大いなる誓いである。ーもしあなたがたに分かるならば―(76)」

(56.出来事:75、76)

この初めの節でアッラーは星に誓っている。当然、アッラーは何か特別なもの以外に誓われたりはしない。そして次の節でそれが確認できるのだが、それは大いなる誓いである。

それではアッラーは何故、星々に誓われるのか?その意味は?他に誓うものはなかったのか?そしてこの大いなる宣誓に込められた意味とは?

これら全ての答えは現代科学が出してくれる。

我々が現在見ることができるのは星々そのものでなくて、星々の過去の姿に過ぎない。例えば、太陽は我々に最も近い天体の1つだが、我々は太陽の今の姿を見ることはできない、見ているものはそれが過去に存在した位置に過ぎないのである。その理由は地球と太陽の距離に関係があり、それらは約15億ｷﾛ離れていて、太陽からの光が我々に届くのに8分かかる。つまり我々が実際に見ているものは現在の太陽の姿ではなく 8 分前にその場所に存在した太陽なのである。

太陽が最も近い天体の1つならば、その何倍も離れた位置にあるその他の天体はどうだろう?

過去に既に爆発してしまった星々がある一方で、我々は依然として、毎夜過去から届く星の光を見ているのである。もっと正確に言うならば、そ

の距離に思いを馳せながら、その位置に存在していたものを見ているのである。

我々は太陽をはじめ、その他のどの星も現在の実際の姿を見ることはできない。見ているものは、過去に存在していたその位置に過ぎないのである。それはクルアーンのこの句そのままである。「星々の場所にかけて。」

なんとクルアーンの記述の正確なことだろう。

*　　*　　*

(8) アッラーは仰せられる。

﴿وَٱلسَّمَآءِ وَٱلطَّارِقِ ١ وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا ٱلطَّارِقُ ٢ ٱلنَّجۡمُ ٱلثَّاقِبُ ٣﴾

「天と夜訪れる者にかけて(誓う)(1)、夜訪れる者が何であるかを、あなたに分からせるのは何か(2)。(それは天の静寂を)貫き輝く星である(3)。」(86.夜訪れる者:1～3)

ٱلطَّارِقِ は、槌で打つように静寂を破る、意である。そこから転じて夜に扉を叩く訪問者と言い表している。

ٱلنَّجۡمُ ٱلثَّاقِبُ は光の強さが周期的に変わることによって宇宙の静寂を破る星のことである。

アッラーは偉大な被造物のうちの一つにかけて誓う、アッラーが天の静寂を破る星だと形容する星にである。

既に、現代科学は高性能機器を使った記録によって、アッラーが言い表したように、一部の恒星の一生の最終段階に、心臓の鼓動のように継続的に強い脈動(周期的な膨張・収縮)をする時期があることを発見している。(脈動変光星、或いはパルサーを含む回転変光星)このような段階の星は中性子星と呼ばれており、毎秒 30 回脈打つ例も観測されている。

なんとクルアーンの記述の正確なことだろう。クルアーンはこのような事実を誰も知り得なかった1400年前に述べているのである。

*　　*　　*

(9) アッラーは仰せられる。

﴿ وَٱلشَّمْسِ وَضُحَىٰهَا ۝١ وَٱلْقَمَرِ إِذَا تَلَىٰهَا ۝٢ <u>وَٱلنَّهَارِ إِذَا جَلَّىٰهَا</u> ۝٣ <u>وَٱلَّيْلِ إِذَا يَغْشَىٰهَا</u> ۝٤ ﴾

「太陽とその輝きにおいて、それ（太陽）につき従う月において、<u>それ（太陽）を輝き表す昼において、それを（闇で）覆う夜において</u>」

（91.太陽：1～4）

جَلَّىٰهَا は明らかにする、表すの意である。

يَغْشَىٰهَا は覆う、の意である。

至高のアッラーは、この章でその無限の力を示す証拠の数々である素晴らしい被造物にかけて誓っている。これらの節はそのうちの二つ太陽とその光、太陽が沈んだ後の夜に姿を現す月にかけてであり、次いで夜と昼にかけて誓っているが、その第3節と4節の昼と夜への誓いにおいて、昼の特徴は<u>太陽を明らかに際だたせることで</u>、夜は<u>太陽を暗闇で覆うこと</u>であると明らかにしている。

そして<u>現代科学で</u>既に証明されたところによれば、大気の層は約2百㌔にも及び、それは太陽を一層明るく見せるものである。大気中の太陽の明るい光は、大気を構成する小さな粒子、水滴や霧状の水分への光の反射で増幅されているのである。

また、大気圏を出てしまえば、闇が太陽を完全に覆ってしまうということである。よって、例え地上は昼間であっても、大気圏外は真っ暗闇で太陽も小さな光の弱い色褪せた星に見え、星々も細々と光を灯すのみである。

よってクルアーンの太陽章の 4 節目に述べられている通り、「太陽を闇で覆う夜」の通りなのである。

これらの事実は最近になってからようやく発見されたことだが、1400 年前の時代にクルアーンにはこれらの事が既に記されていたのである。

* * *

（10）アッラーは仰せられる。

﴿ ٱقْتَرَبَتِ ٱلسَّاعَةُ وَٱنشَقَّ ٱلْقَمَرُ ۝١ ﴾

「（最後の審判の）時は近づき、月は裂けた。」（54.月 ：1）

イブン・マスウードは伝えている。「預言者ムハンマド ﷺ が在世の時代に月が二つに裂けた。（彼らがそれを見るために）預言者は『見たまえ(目撃者たれ)』と言われた。」（ブハーリー）

アナス・ブン・マリクは伝えている。「メッカの人々が預言者に印(奇跡を見せてくれ、と要求したので預言者は月が二つに裂けているのを見せた。」（ブハーリー）

既にクルアーンは預言者の時代に、彼が使徒である証として月が裂けたと述べている。これは当時の人々は何か印（つまり奇跡）がなければ彼がアッラーから遣わされた使徒であることを信じようとしなかったからである。

そこで預言者ムハンマド ﷺ はアッラーの力によって、月を裂いてみせ、当時メッカの人々に信仰を説いたのである。

アッラーはその出来事が実際起きたことであると示す為にその跡を残した。現代科学は月の表面に大きな裂け目や窪みがあることが発見し、実際それは数百メートルから千メートル以上の深さに達し、幅は 5 百メートル

から５キロメートルもある。それは何百キロにも渡り、真っ直ぐに、或いは曲折しながら続いている。これは「月の裂け目」の名でよく知られている。

そして、ほぼ月の中央部分に巨大な裂け目が走っているのが良く分かる映像が捉えられている。

クルアーンでは既に 1400 年も前からこれらの事柄について述べられていたのである。これ以上の真実を証明する証拠があるだろうか！！

*　　*　　*

(11) 預言者ムハンマドは仰せられた。

«.....النجوم أمنة للسماء فإذا ذهبت النجوم أتى السماء ما توعد.....»

「星々は天への保証である。もし星々が消えてしまったら、（最後の審判の日は）約束したように・・・」（ムスリム）

ハディースでは星々は天を保証し、また宇宙の秩序の均衡を示していると説明されている。もし星々の光が消えて消滅し、散らばり落ちてしまったなら、宇宙の秩序は混乱し、アッラーがクルアーンで述べたように、人々がしたことの審判を受ける時､天が落ちてくる最後の審判の日の兆候を意味することになる。

現代科学で証明されたところによると､宇宙の星々は互いに重力の一種である強大な力で繋がっており､それは宇宙を守る秩序の根源になっているということである。そしてそれは預言者ムハンマドﷺが仰せられたこと「星々は天の保証である。」と一致する。従って星々が消滅すれば、全宇宙の法則も崩壊するのは想像に難くない。

なんと預言者ムハンマドﷺの言行録（ハディース）の記述の正確なこと

だろう。そしてそれは見事に現代になって明らかにされた宇宙の真実とも一致する。

—予知①— 未詳の事物への指摘と現代科学の予測

（12）アッラーは仰せられる。

﴿يَوْمَ نَطْوِى ٱلسَّمَآءَ كَطَىِّ ٱلسِّجِلِّ لِلْكُتُبِ ۚ كَمَا بَدَأْنَآ
أَوَّلَ خَلْقٍ نُّعِيدُهُۥ... ١٠٤﴾

「その日**我**は巻物を巻きとるように天を巻き上げる。**我**が最初の創造を始めた（時の）ように、我はそれを戻す…」（21.預言者：104）

نَطْوِى ٱلسَّمَآءَ 天を包み込み巻き上げる、の意である。

كَطَىِّ 包み込み巻きとるように、あるものが平らに広がっていた状態から畳み込まれ閉じられるかのように、の意である。

ٱلسِّجِلِّ 書き物のために使われるもの（巻物、羊皮紙、紙葉など）の意である。

لِلْكُتُبِ 書き物のための、の意である。

この節は、この宇宙の終りについて神が人間の所業を清算するために定めた審判の時のことを告げており、宇宙は、書かれたものが広げられたような状態から丸められ、巻き取られるように天が畳み込まれて終わる、と述べているのである。同様に、諸天と大地は一つのもののようにぴったり合わさっていたが、天と地に分けられた。と。

كَانَتَا رَتْقًا فَفَتَقْنَٰهُمَا「諸天と地はとじ合わさっていたが、我がそれらを二つにを分けた」（21.預言者 30）と、ある通りである。先ほどその証拠を示したように、宇宙は広がり続けており、それは وَٱلسَّمَآءَ بَنَيْنَٰهَا بِأَيْيْدٍ وَإِنَّا لَمُوسِعُونَ 「また、

天を、我は偉力をもって打ち建て、押し広げた」（51.撒き散らすもの 47）とアッラーが仰せられた通りである。それ故、現在主流となっているビッグバン理論では、アッラーは天を広げられた後、نَطْوِى ٱلسَّمَآءَ كَطَىِّ ٱلسِّجِلِّ لِلْكُتُبِ「巻物を巻きとるように天を巻き上げる」とある通りのことを主張している。

現代科学によって宇宙が膨張する現象が証明された後、**ビッグバン理論**は以下のことを解明した；

まず宇宙は重力とは真逆の方向に広がっていき、それ故いずれは重力がビッグバンによる宇宙の広がる力に勝る時がやってくる。そして宇宙は再び巻き上げられ、全てが始めにそうであったように、ただ１つの点に戻るのである。

それ故、再び重力が宇宙を広げる力に打ち勝つ時、その結果として宇宙全体が重なり合い元通りに戻る時「**ビッグクランチ**」がやって来る、と言う。それはアッラーが

كَمَا بَدَأْنَآ أَوَّلَ خَلْقٍ نُّعِيدُهُۥ「最初の創造を始めた(時の)ようにそれを戻す」（21.預言者：104）と仰せられる通りである。

クルアーンの記述の何という正確さと雄弁さだろう。

—予知②— 未詳の事物への指摘と現代科学の予測

(13) アッラーは仰せられる。

﴿وَجُمِعَ ٱلشَّمْسُ وَٱلْقَمَرُ ۝٩﴾

「太陽と月が合わせられた（時）」（75.復活：9）

جُمِعَ は合わせられる、の意である。

クルアーンのこの節でも最後の審判の日の兆候の一つについて言及されている。その時、太陽と月が合わさると云うのである。

既に現代科学で証明されたように、月は年に3㎝程地球から遠ざかっており、いずれ地球の重力圏から抜け、太陽の重力圏に入ることが分かっている。それは「太陽と月が合わせられた」とのクルアーンの節の言う通りである。

また1つの証拠として指摘した「ビッグバン理論」でも、クルアーンにもあるように、いずれ月と太陽が一緒になってしまうことを説いている。

最新機器の発達がなければ決して解明されなかった事を、1400 年前に書かれたクルアーンが先んじて指摘していたのである。クルアーンは我々を一体どこまで導いてくれるのだろうか？

―予知③―　未詳の事物への指摘と現代科学の予測

(14) 神の使徒ムハンマドは仰った。

«لا تقوم الساعة حتى تطلع الشمس من مغربها....»

「太陽が西から昇らない限り最後の審判は訪れない・・」

（ブハーリー）

ハディースが伝えるように、太陽はいつの日か今まで通り東から昇るのではなく、西から昇り始めると述べている。つまり、それこそが神の御前に立たされる最後の審判に極めて近付く日である。

既に現代科学が証明したように、地球の自転の速度は1世紀ごとに 1 秒弱遅くなっているのである。そうであれば地球は、将来東から西に向かって自転し始め、太陽は西から昇ることもあり得る。

なんとハディースの記述の正確なことだろう。

《大地と山々》

（15）アッラーは仰せられる。

﴿وَٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ ذَٰلِكَ دَحَىٰهَآ ٣٠﴾

「その後、大地を延べ広げ給うた」（79.引き離すもの：30）

الأدحية はダチョウが卵を産む場所(ダチョウの巣)、の意である。

دَحَىٰهَآ は押し延し、広げ、それをダチョウの巣のように（楕円形）にした、の意である。

よってこの節の意味は、至高のアッラーはまず大地を押し広げられ、それからダチョウの卵のような形、つまり楕円形にされたということである。

現代、天文学者たちが解明したのは、実際、地球は完全に球状な形をしておらず、赤道周囲は、南北両極を結ぶ経線より長い。つまり言い換えれば、地球はダチョウの卵型をしているとも言える。「伸べ広げ給い」とアッラーが仰せられた通りである。

現代に入ってから解明されたこれらの事実を、誰も知りようが無かった 1400 年前の昔にクルアーンは既に述べていたのである。一体どのようにして？。

* * *

（16）アッラーは仰せられる。

﴿وَٱلۡأَرۡضِ ذَاتِ ٱلصَّدۡعِ ١٢﴾

「裂け目のある大地にかけて、」（86.夜訪れるもの：12）

وَٱلۡأَرۡضِ ذَاتِ ٱلصَّدۡعِ 地上には割れ目、裂け目が存在する、の意である。

クルアーンは、我々が生きているこの地球上には無数の割れ目、裂け目があると伝えている。

そして現代科学が既に証明したように、地球上には網目のように走る裂け目が存在し、全長 64000 ㌔以上にも及ぶ。それは地球の岩石層を貫き深さ 65 ㌔にも達する。

現代に入ってから解明されたこうした事実をクルアーンは既に 1400 年前もの昔に述べていたのである。それには一体どんな理由が考えられるであろうか。

*　　*　　*

17） アッラーは仰せられる。

﴾... وَتَرَى ٱلْأَرْضَ هَامِدَةً فَإِذَآ أَنزَلْنَا عَلَيْهَا ٱلْمَآءَ ٱهْتَزَّتْ وَرَبَتْ وَأَنۢبَتَتْ مِن كُلِّ زَوْجٍۭ بَهِيجٍ ۝٥﴿

「また、あなたは大地が枯れて荒れ果てているのを見よう。だが、我がそこに雨を降らすや、大地は身震いし、膨らんで、あらゆる植物が雌雄で美しく萌え出でる。」（22.巡礼：5）

هَامِدَةً は死んだ、枯れた、渇いた草木のない荒地の意である。

ٱهْتَزَّتْ は動いた(動き出した)、の意である。

وَرَبَتْ は増えた、成長した、膨れたの意である。

クルアーンに述べられているように、空から雨が大地に降り注ぐ時、大地は精気を取り戻す。そして丁度アッラーが「膨らんで」と仰せられたように土壌を構成する様々な成分が「身震いし」、次いで「膨れだす」のである。

そして現代科学によって、雨が大地に降り注ぐと土壌の成分が動き出

し、その嵩が増すことが確認されている。

その詳細は以下の通りである。土壌の成分は上下に積み重なった層状になっており、そこに雨が降り注げば、各層が含んでいる金属の違いによって異なる電荷を帯びる。その帯電した層の反発作用によって、このそれぞれの層の間が（アッラーが「身震いし」と言われたように）動いた結果、水が土壌の各層に染み込み、（アッラーが「膨れだす」と言われたように）膨らんで嵩が増すのである。

この土壌の「身震い」の効果はと言うと、雨が降った後、植物が根を伸ばし必要な水分を、これらの層状の土壌から得やすくなることである。これらの層は「身震い」の結果、各層の間に水を含んで軟らかくなっているので植物の水分補給を容易にさせるのである。

現代のように科学技術が発達していなかった時代に、クルアーンはこのような驚くべき事実について述べているのである。

* * *

（18）アッラーは仰せられる。

﴿وَتَرَى ٱلْجِبَالَ تَحْسَبُهَا جَامِدَةً وَهِىَ تَمُرُّ مَرَّ ٱلسَّحَابِ ۚ
صُنْعَ ٱللَّهِ ٱلَّذِىٓ أَتْقَنَ كُلَّ شَىْءٍ ۚ إِنَّهُۥ خَبِيرٌۢ بِمَا تَفْعَلُونَ ٨٨﴾

「あなたは山々を見て堅固であると思うだろうが、それは雲が散るように通り過ぎていくのである。それはあらゆる物を完璧に整え給う**アッラー**の御業である。まことに、**彼**はあなたたちの行いに熟知なされる御方である。」（27.蟻：88）

تَحْسَبُهَا جَامِدَةً は、目で見るならば、それは静かで固定されているように見えるが、実際は動いており、雲のように過ぎ去る物である、の意である。

クルアーンのこの節では、アッラーは創造したすべての物に習熟なさっているが、アッラーのその完璧な創造物と同じように、その創造において熟達のほどを示している山々を観察するよう促し、固定され静止しているように見える山々も、実は雲が動くように動いているのである。と言っているのである。

雲を観察して見れば、初めは静止しているように見えるが、実は疑いなく動いていることが分かるものだが、山々もそれと同じことである。

現代科学で、山々は大地の動きと地球の自転、公転に合わせて動いていることが確認されている。

山々の動きは特別で我々の視力では捉えることはできないが、じっくり考え観察すれば理解できる筈である。

وَتَرَى ٱلْجِبَالَ تَحْسَبُهَا جَامِدَةً وَهِىَ تَمُرُّ مَرَّ ٱلسَّحَابِ「あなたは山々を見て堅固であると思うだろうが、それは雲が散るように通り過ぎる。」とアッラーが仰せられる通りである。

ここには 2 つの学術的に重要で驚くべき真理が存在する。

1-山々の動き（大地の動きに付随）2-大地の動き（山脈が大地を固定しているので山の動きは大地に付随）

この節で述べられている「それは雲が散るように通り過ぎる。」は、これらの真実を全く知らなかった 1400 年前の人類にも自然と頭に入っていく分かり易い指摘でもある。

そしてアッラーの御言葉「あらゆる物を完璧に整え給う御業」とは、我々をアッラーの完璧な創造に対し、熟考することを勧めている。万物は決して永遠にあるというのではなく、いずれの最後の時が到来し全ては無とな

るのである。その日こそ審判と懲罰の日である。

なんとクルアーンは雄弁で英知に溢れ偉大であることよ。

*　　*　　*

（19）アッラーは仰せられる。

﴿وَأَلْقَىٰ فِي ٱلْأَرْضِ رَوَٰسِيَ أَن تَمِيدَ بِكُمْ...﴾

「また、**彼**は大地に山々を堅固に据えられた。それは大地があなた方を傾かせないためである」（16.蜜蜂：15）

رَوَٰسِيَ 堅固に固定された山々(山脈)の意である。

أَن تَمِيدَ 傾かない、揺れ動かないの意である。

*　　*　　*

（20）アッラーは仰せられる。

﴿أَلَمْ نَجْعَلِ ٱلْأَرْضَ مِهَٰدًا ۝ وَٱلْجِبَالَ أَوْتَادًا ۝﴾

「また、**我**は大地を広々としなかったか（6）また、山々を杭と成さなかったか」（78.消息：6～7）

أَوْتَادًا は大地のバランスを守るための為の杭、の意である。

（19）の節において、アッラーが大地を創造し、山々を杭として大地を固定され、傾かないようにされた、と述べている。つまり、もしアッラーがそうなされなかったならば、傾いたり不安定になったりして大地は我々が今日見ているような姿にはならなかったのである。これは全てアッラーの恵みである。

そして次の(20)の二節ではアッラーが傾かないように固定したこれらの山々について詳しく説明されている。これらの山々は基底部分は大地の奥

底にまで伸び、この節が伝えている通り、大地表面に見えている部分よりも大きいのである。

そして現代科学は 1400 年前にクルアーンが言及したことを見事に証明してみせた。

1－地球の奥底にまで伸びるこの山々の杭は、現在我々が見ている地球表面の山々の 10～15 倍の大きさで、地球の奥底（マグマの層）にまで伸びていて、クルアーンに述べられている通り、正に杭のように山々を支えているのである。

2－山々は、地軸を廻る地球の自転において大地のバランスを保ち、安定させ、秩序立てる役割を担っていて、ぶれたりふらふらしたりするのを減らす働きをしている。それ故、クルアーンに、「傾かないように」と記されている通り傾いたり不安定であったりするのを防いでいるのである。

現代に入ってから発見されたこれらの事実をクルアーンは既に 1400 年前もの昔に述べているのである。

*　*　*

《海に関して》

(21) アッラーは仰せられる。

﴿وَٱلۡبَحۡرِ ٱلۡمَسۡجُورِ ٦﴾

「たぎる海にかけて(誓う)」（52.山：6）

وَٱلۡبَحۡرِ ٱلۡمَسۡجُورِ とは、火が燃えている海。のことで、海底の熱が(海底の)海水を極熱状態にしている意。

預言者ムハンマドは仰せられた。

«...فَإن تحت البحر نارا وتحت النّار بحرا»

「そして海の下には火が、火の下には海が」

（アブー・ダウードとバイハキーによる預言者言行録）

アッラーは上のクルアーンの章句で、偉大な被造物の１つである海において誓い、その後で、海がたぎっており、燃えているような海底が海水を高温にしていると述べている。

そしてハディースでも同様に「そして海の下には火が」、と述べられているように、海の底の下には火があり、「火の下には海が」とのようにその火の下にはまた別の水がある。

また現代科学において新たに発見されたことは次の通りである。

1－海洋の底が拡大していく現象は、海底にある大地の裂け目から溶岩が噴出した結果である。柔らかく半分溶けたような新しい海底プレートは大地の裂け目の高熱によるもので、この溶岩の温度は1000度近くにも達し、大地の裂け目付近の海底で水と混ざり、アッラーの「たぎる海」の言葉通り、海水を高温に、そしてまた生命豊かなものにしている。

2－そしてこの（1000 度近くにも達する熱の影響で溶解状態である）溶岩の下に、大量の水分が存在する。この水の量は、地球表面に存在する水量の何倍にもなるという。

なんとクルアーンとハディースの記述の正確なことだろう。そしてこの驚くべき事実は、そのような情報を誰も持ち得なかった1400年前に既に述べられていたのである。

* * *

(22) アッラーは仰せられる。

﴿أَوْ كَظُلُمَٰتٍ فِى بَحْرٍ لُّجِّىٍّ يَغْشَىٰهُ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ سَحَابٌ ۚ ظُلُمَٰتٌۢ بَعْضُهَا فَوْقَ بَعْضٍ إِذَآ أَخْرَجَ يَدَهُۥ لَمْ يَكَدْ يَرَىٰهَا... ﴿٤٠﴾﴾

「また、(不信心の者の状態)は、深海の暗黒のようなもので、彼らを波が覆い、その上にはまた波があり、その上を(更に)雲が覆っている。いくつもの暗闇が積み重なり、彼が手を差し伸べても、ほとんど見えない…」

（24.御光：40）

بَحْرٍ لُّجِّىٍّ は、海底の辺り、即ち、深海の意である。

يَغْشَىٰهُ は、覆う、の意である。

このクルアーンの節は、我々にアッラー(神)とタウヒード(神の唯一性)を信じず、その預言者と使徒たちを信じようとしない不信仰者たちについて述べている。例えば外見や恰好が少しばかり良くても、アッラーの許では全く役に立たず、意味もない。それはまるで水底深くの暗闇のようなもので、人間の益に成り得ようがないものである。「深海の暗黒のようなもの」のようとはそのような意味である。

また、ここでは 2 種類の波と暗闇の層ついても述べている。この海底の暗闇には段階があり、それはその暗闇の中にいる者にとって、あまりの暗さに自分の手さえも見えないような状況なのである。「いくつもの暗闇が積み重なり、彼が手を差し伸べても、ほとんど見えない…」とアッラーが仰せられる通りである。

現代科学も海・大洋の海底における 2 種類の波（流れを伴う層）について解説している。

1 －表面の波

2 －海中に存在する内部の波。

これは「彼らを波が覆い、その上にはまた波があり」と上記の引用の通りである。

また、海の深度によって、程度の異なる幾層もの暗闇が存在することが確認されており、これも正にクルアーンの「いくつもの暗闇が、互いに積み重なり、」とある通りである。それによると、海底二百メートルの地点で暗黒に近い暗闇があり、海底千メートルの地点にもなると、それこそ真暗闇である。これもクルアーンの「手を差し伸べても、ほとんど見えない」と述べられている通りである。

現代に入ってから発見されたこれらの事実を、クルアーンは既に 1400 年前もの昔に述べていたのである。

*　　*　　*

（23）アッラーは仰せられる。

﴿مَرَجَ ٱلْبَحْرَيْنِ يَلْتَقِيَانِ ١٩ بَيْنَهُمَا بَرْزَخٌ لَّا يَبْغِيَانِ ٢٠
فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٢١ يَخْرُجُ مِنْهُمَا ٱللُّؤْلُؤُ وَٱلْمَرْجَانُ ٢٢﴾

「**彼**は二つの海を一緒に合流させ給うた（19)。だが両者の間には障壁があり、一方が他方を欲することはない(20)。それで、あなた方は、**主**の恩顧のいずれを嘘と言うのか(21)。双方は真珠と珊瑚を産出する(22)」

（55.慈悲あまねく御方：19-22）

مَرَجَ ٱلْبَحْرَيْنِ は往復、不安定を意味し、双方の海の波が重なる場所の事を示している。

يَلْتَقِيَانِ は双方が出会うことを示している。

بَرْزَخٌ は障害、混在を防ぐ境界の意。

لَّا يَبْغِيَانِ は双方欲しあうことなく境界を越えることはない、即ちそれらが混ざり合うことはない、の意。

最初の٢つの節は、アッラーの偉大な力を示す一つの印である。それとは、アッラーがそれぞれの海が決まった流れに沿って合流地点に集うようになされ、また二つの海の(一方は真珠を産し、他方は珊瑚を産する)海水が出くわすにも拘らず、お互いが混ざり合うことはないのは、両者の間に境界＝障害があるからである。ということである。

その合流地点は、例えば地中海と大西洋、紅海とインド洋が合流する地点、そして大洋がそれぞれ出会う場所で見られる。それはクルアーンに مَرَجَ ٱلْبَحْرَيْنِ يَلْتَقِيَانِ「彼は二つの海を一緒に合流させ給うた。」と述べられている通りである。クルアーンでは海も大洋も全て「海」の複数形 البحار で呼ばれている。

そして既に現代科学においても、これら海と大洋の水が、両者とも塩水であるが、それぞれの比重が違い、同様に塩分濃度が違い、温度が違い、酸素の溶解度に違いがあることが証明されており、これら全ては境界を成す要因であり、混ざり合うことをさせず、全ての海にそれぞれ異なる特徴のある水質を保たせているのである。正にクルアーンに

بَيْنَهُمَا بَرْزَخٌ لَّا يَبْغِيَانِ「両者の間には障壁があり、一方が他方を欲することはない(混ざり合おうとしない)。」と述べられている通りである。

* * *

(24) アッラーの言を通して知ることができる別の種類の境界

﴿وَهُوَ ٱلَّذِى مَرَجَ ٱلْبَحْرَيْنِ هَـٰذَا عَذْبٌ فُرَاتٌ وَهَـٰذَا مِلْحٌ أُجَاجٌ
وَجَعَلَ بَيْنَهُمَا بَرْزَخًا وَحِجْرًا مَّحْجُورًا ۝٥٣﴾

「彼こそは二つの海を分け隔てられた御方である、一つはは甘く旨く、もう一方は塩辛く苦い、両者の間に障壁を設け、遮断なされた。」(25.識別：53)

فُرَاتٌ は甘いこと、の意である。

أُجَاجٌ は塩辛い、の意である。

بَرْزَخًا は混じり合うのを防ぐ境界、の意である。

حِجْرًا مَّحْجُورًا は混じり合いを防ぐ、禁ずる、の意である。

この節では別種類の境界線について指摘してあり、それは甘い川の水(淡水)と塩辛い海の水の合流地点で混交を防ぐ境界についてである。

そして現代科学でもこの点について次のように解説している。確かに川と海のようにそれぞれ成分の異なる水が合流する地点では、それらがお互いすぐに混ざり合うことはなく、またそこに住む海洋生物もその域外に出ることはなく一生涯をその域(汽水域)のみで生きるのである。正にクルアーンに、وَجَعَلَ بَيْنَهُمَا بَرْزَخًا وَحِجْرًا مَّحْجُورًا と述べられている通りである。

現代に入ってから発見されたこれらの事実を、既に 1400 年前もの昔にクルアーンは驚異的な正確さと鋭い指摘で述べていたのである。

*　*　*

《人間》(25)(26)(27)(28)

(25)アッラーは仰せられる。

﴿ مَّا لَكُمْ لَا تَرْجُونَ لِلَّهِ وَقَارًا ١٣ وَقَدْ خَلَقَكُمْ أَطْوَارًا ١٤ ﴾

「あなたがたはどうしたのか。アッラーのご親切・忍耐に望みを持たないとは(13)。**彼**は確かに段階をおってあなたがたを創られた。(14)」

(71.ヌーフ:13、14)

أَطْوَارًا は異なる様々な段階の意である。

(26)アッラーは仰せられる。

﴿ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِن كُنتُمْ فِى رَيْبٍ مِّنَ ٱلْبَعْثِ فَإِنَّا خَلَقْنَٰكُم مِّن تُرَابٍ ثُمَّ مِن نُّطْفَةٍ ثُمَّ مِنْ عَلَقَةٍ ثُمَّ مِن مُّضْغَةٍ مُّخَلَّقَةٍ وَغَيْرِ مُخَلَّقَةٍ... ٥ ﴾

「人々よ、あなたがたは復活について疑うのか、**我**があなたがたをまず土から、次いで精滴とし、次いで凝血とし、更に創造の起こる部分と起こらない部分からなる肉塊に形作った・・」(22.巡礼:5)

نُّطْفَةٍ は妊娠の要因となり得る一滴の精滴、の意である。(アッラーが仰せられたように精子と卵子が混ざり合ったもの、の意)

عَلَقَةٍ は子宮内膜の上皮細胞にぶら下がっている凝血(即ち初期の胎芽)、の意である。

مُّضْغَةٍ は噛み跡のついたような物の形をしている肉塊(神経ができ上がって体節をつくり、それが丁度何かを一噛みした跡のように見える胎芽)、の意である。

مُّخَلَّقَةٍ وَغَيْرِ مُخَلَّقَةٍ は前述の肉塊であるが、それは٢種類から成る。人間の身体器官の一部に形作られる部分と形成が起こらない部分である。

(27)アッラーは仰せられる。

﴿وَلَقَدْ خَلَقْنَا ٱلْإِنسَـٰنَ مِن سُلَـٰلَةٍ مِّن طِينٍ ﴿١٢﴾ ثُمَّ جَعَلْنَـٰهُ نُطْفَةً فِى قَرَارٍ مَّكِينٍ ﴿١٣﴾ ثُمَّ خَلَقْنَا ٱلنُّطْفَةَ عَلَقَةً فَخَلَقْنَا ٱلْعَلَقَةَ مُضْغَةً فَخَلَقْنَا ٱلْمُضْغَةَ عِظَـٰمًا فَكَسَوْنَا ٱلْعِظَـٰمَ لَحْمًا ثُمَّ أَنشَأْنَـٰهُ خَلْقًا ءَاخَرَ ۚ فَتَبَارَكَ ٱللَّهُ أَحْسَنُ ٱلْخَـٰلِقِينَ ﴿١٤﴾﴾

「**我**は人間を泥土の精髄から創った（12）。次に我は彼を一滴の精滴にし、堅固な場所に収めた。（13）それから、**我**はその精滴を一つの血の塊に創り、次にその凝血から肉塊を創り、その肉塊から骨を創り、その骨に肉を着せ、それから彼をそれを別の生命体に創りあげた。何と祝福の多きアッラー、最も優れた創造者よ。（14）」（23.信者たち：12～14）

سُلَـٰلَةٍ مِّن طِينٍ は、（人類の先祖アダムを）粘土の精髄から創った、の意である。

نُطْفَةً は、妊娠の要因となり得る精滴（精子と卵子が混ざり合ったもの）、の意である。

مُضْغَةً は、体節部分が噛跡のついたように見える肉塊の意である。

*　　*　　*

(28)アッラーは仰せられる。

﴿إِنَّا خَلَقْنَا ٱلْإِنسَـٰنَ مِن نُّطْفَةٍ أَمْشَاجٍ...﴿٢﴾﴾

「まことに**我**は人間を混ぜ合わせた一滴の精滴から創り、・・」

（76.人間：2）

نُّطْفَةٍ أَمْشَاجٍ は男女の精液を混ぜ合わせた精滴の意である。

イマームアフマドの伝承によると、1人のユダヤ人が預言者ムハンマドﷺに、「人間は何から創られたのですか？」と尋ねたところ、

« يا يهودي من كلٍّ يُخلق، من نطفة الرجل ونطفة المرأة »

(29)「ユダヤ人よ、全人類は男と女の精滴から創られた。」

（アフマドの伝承：4424）

このハディースは人間の創造について、そのような事実を誰も知らなかった 1400 年前に素晴らしい正確さ、精密さで述べている。

クルアーン引用(25)では、当時一般に流布していた、人間は胚の時点から人間の形をしていてそれが大きくなるのだ、という考えとは反対に、人間は数々の段階を経て創造されると述べている。そして現代科学においても、クルアーンの記述が正しかったことが証明されている。

﴿ وَقَدْ خَلَقَكُمْ أَطْوَارًا ﴿١٤﴾ ﴾

クルアーンの引用(26)と(27)でも人間は一片の土塊から創られ、そして人間の形に創造されたと言及がある。まず一滴の精滴から血の塊に似た凝血へ、子宮にぶら下がった凝血から肉塊(胎芽)に、噛み跡がついたような肉塊へ。その肉塊は器官を形成する部分と変わらない部分からなる。

クルアーンの引用(28)では精滴、凝血、肉塊の段階に続き、骨の創造、それに肉を着せ、別の被造物にされる段階があると述べられている。

そしてクルアーンの引用(29)では、人間は男の精滴からだけでもないし、また女の精滴からだけでもなく、混ざり合った両性の精滴から創造されたと言及しているのである。それはハディースにおいても同様である。

18 世紀まで人々は人間の身体は月経血によって構成されると信じていた。雌卵の発見後、人間の身体はこの雌卵によって創られる、と信じられるようになった。そして精子の発見後はこの精子の先端部分によって創られ

るとされた。しかし最終的には科学技術の発展によって撮影が可能になった胚の映像によって、これら 2 つの説が間違っていたことが証明された。

現代科学が発見したことを簡潔に記すと、

1 －何百万もの精子のうち500以下の精子だけが卵巣近くの卵管までたどり着き、卵子と出会ってその中のたった 1 つの精子だけが受精し、受精卵は細胞分裂を繰り返しながら子宮に運ばれ、子宮内膜上皮に着床する。これこそがクルアーンに述べられていることである。またクルアーンの引用（27）2 節の「混ぜ合わせた精滴」のように、それは男女両方の精滴であり、ハディースにもあるように、全ては男と女の精滴から創られたのである。

« من كلٍّ يُخلق، من نطفة الرجل ونطفة المرأة »

またクルアーンの نُطْفَةً の語に注目してみると、これは単数形で書かれている。複数形であればنُطف の形になるはずである。つまり 1 つの精子と 1 つの卵子のみからなる一滴、の意である。なんとクルアーンの記述の正確なことであろうか！

2 －科学の発展により胎児の映像撮影が可能になり、その後、混ざり合わされた精滴(受精卵)の観察も可能になった。またクルアーンに عَلَقَةً（子宮上皮細胞にぶら下がっている凝血）とあるように、その後、血の塊のような胎芽も観察された。そして次の時期の胎芽は、مُضْغَةً（噛み跡のついたような肉塊、）とある通り、正に臼歯で噛み潰されたガムのような形をしている。そしてこの肉塊は、アッラーの指摘「創造の起こる部分と起こらない部分からなる肉塊に形作った」の通り、人間の身体器官へと形成されつつある部分と変化がおこらない部分に分けることができる。従って、我々がこの肉塊について形成が起こっている部分のみから成っている、或いは形成が起こ

らない部分のみから成っている、と言うことは間違いで科学的ではない。そうではなく 2 つの部分が同時に存在するのである。その後は骨の創造に至る。「その肉塊を骨に創り」、それから「その骨に肉を着せ」とクルアーンが述べる通りである。そして「それから**我**はそれを別の創造物に作り出した。」というクルアーンの記述通り、人間の創造の最終段階に至るのである。そしてこれこそが人間の創造であり、その過程はクルアーンの記述通りの段階を経る。

科学技術を持たなかった 1400 年前のクルアーンの記述の正確さが明示された箇所である。

*　　　*　　　*

(30)　アッラーは仰せられる。

﴿إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِـَٔايَٰتِنَا سَوۡفَ نُصۡلِيهِمۡ نَارٗا كُلَّمَا نَضِجَتۡ جُلُودُهُم بَدَّلۡنَٰهُمۡ جُلُودًا غَيۡرَهَا لِيَذُوقُواْ ٱلۡعَذَابَۗ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَزِيزًا حَكِيمٗا ٥٦﴾

「まことに**我**が印を拒む者たちは、いずれ獄火に焼べられよう。彼らの皮膚が焼け尽きる度、彼らに懲罰を味わわせるべく別の皮膚を付け替える。まことにアッラーは偉力並びなく、英明であられる。」(4.婦人：56)

نَضِجَتۡ は焼かれる、の意である。

بَدَّلۡنَٰهُمۡ جُلُودًا غَيۡرَهَا は彼らの皮膚を付け替える、の意である。

クルアーンでは明確にアッラーの存在について、また不信仰による懲罰の過酷さについても述べられている。クルアーンとアッラーとその唯一性を否定する無信仰者たちの最後は火獄に他ならない。火獄では不信仰者の皮膚が焼き尽くされる度にアッラーが皮膚を新たなものに付け替えられ、更にその苦しみを味わうのである。つまりアッラーは業火の厳しさを伝える為に皮膚

を創造されたのである。

現代科学において、人間が焼かれる際の感覚の中枢は皮膚にあるということが発見された。つまり皮膚が焦がされたら、神経が最も参ってしまうと言う。正に火獄は「懲罰を味わわせる」ために「皮膚を付け替える。」と、この節にある通り過酷なのである。

これは、このような情報が皆無だった 1400 年も前の時代のクルアーンに述べられていたことである。

* * *

(31) 預言者ムハンマド ﷺ は言われた。

« إذا مرّ بالنطفة اثنتان وأربعون ليلة بعث الله ملكا فصورها وخلق سمعها وبصرها وجلدها ولحمها وعظامها ... »

「精滴が 42 日を過ぎたなら、アッラーは天使を遣わされ、人間に形作り、聴覚、視覚、皮膚、そして肉と骨を創造される・・」（ムスリム）

このハディースが伝えるところによると、胎児を形作る精液は「混じり合った」男と女の精滴であった。

そして、最新科学でも、丁度受精から 42 日後胎児の骨格ができ始め、ようやく人間の形になり始めるという。

アッラーに讃えあれ！何というハディースの記述の正確さ、そしてその数の正確なことだろう。これは間違いなく、このハディースが預言者ムハンマド ﷺ へのアッラーからの啓示であった証明であろう。そうでなければ、誰もこのような知識、情報を持たなかった 1400 年前にこのような正確な指摘ができただろうか。

(32)　預言者ムハンマド ﷺ は言われた。

« ماء الرجل غليظ أبيض وماء المرأة رقيق أصفر ...»

「男の精液はより白く濃く、女のそれは黄色く薄い。」

(サヒーフ・ジャーミウ・サギール)

このハディースが伝えるところによると、男の精液は女のそれとは形状、色、その性質において異なっており、男の精液は白めで濃く、女のそれは黄色く薄い。

現在の我々にとって、男の精液が白いことは知られていたが、女の精液の色は現代まで知られていなかった。しかし機器類の大幅な進歩によって明らかになったことは、女の精液も男のものと似てはいるがより薄く、最近撮影に成功したその映像によると色ははっきりと黄色であったということである。正にハディースの記述通りである。

これは先進科学の発展によって最近になって明らかになったことである。しかし約 1400 年前に既に全く同じことがハディースで述べられていたのである。

*　　*　　*

(33)　預言者ムハンマド ﷺ は言われた。

« كل ابن آدم يأكله التراب إلا عجب الذنب، منه خُلق وفيه يُركّب »

1-「アダムの子孫は尾骨を除き全て地中で腐っていく。人類は尾骨から創造され、またこれによって復活する（審判の日において）」（ムスリム）

« ليس من الإنسان شيء إلا يبلى إلا عظما واحدا هو عجب الذنب، ومنه يُركّب الخلق يوم القيامة »

2-「ある骨を除き人は全て地中で腐っていく。その骨とは尾骨である。審判の日にそれによって復活するのである。」（ムスリム）

« يأكل التراب كل شيء من الإنسان إلا عجب ذنبه »

3-「全ては地中で腐って無に帰すが、尾骨だけは別である。」それは何ですか？と尋ねられると、預言者ムハンマド ﷺ は

« مثل حبة خردل منه تنشأون »

「マスタードの実のようなもので、そこから人が創造される。」と答えられた。（ムスリム）

عجب الذنب は尾骨の意である。

يُركّب は、再生の意である。つまり審判の日にその尾骨から人間は再生される。

ハディースが伝えるところによると、死後、人間の身体は（土葬の場合）墓の中で土に帰り、水と土の基礎構成要素に変化する。しかしその際、ある骨の一部分だけは例外的に何物にも変化せず残り続ける。それは背骨の最終部分、尾骨でこの小さな骨は胎児がそこから創られた部分で、死後また同じ組織に戻り、アッラーの許に送られ最後の審判の日の裁きを受けるのである。

ハディースが伝えるように、この骨の小さな一部分は死後も土の中で腐ることなく、また何かに吸収されたりせずに、審判の日にまた人間を再生させるのである。

また現代科学の発見によると：

胚発生 15 日後、原始線条と呼ばれる、細い糸状のものが発生する。原始線条は初めは胚の真ん中で少し膨れた小さな形をしている。これが原始線条の初期段階に当たる。そしてこの原始線条から胚の脊索が分化し神経管が形成され、そこから徐々に全ての身体器官が分化していく。そしてこの原始線条は最終的に脊椎の最終部分（尾骨）まで形成する。

1935年にハンス・シュペーマン(Hans Spemann)は、初期形成体(The Primary Organizer：（原始線条の意、或いはそのまま英語でオーガナイザーともいう）の分野での功績（第一次オーガナイザーの発見）が認められノーベル生理学・医学章を受賞。胎児の身体形成はこの原始線条から始まる、とした。この原始線条はシュペ—マンとその科学者チームが（イモリの卵を使って実験したものだが)煮沸や、破砕を試みてもこの細胞の性質を破壊することはできず、また(別の胚の腹側に)移植すると自然に第2胚が生じた。そしてこれによって、原始線条は胚の形成を誘導する働きをし、それは破壊されないということが分かった。これこそ正にアッラーの啓示によって預言者ムハンマドﷺが1400年前に語ったことと見事に一致するのである。

ここで預言者ムハンマドﷺのハディースと現代科学による発見の一致について簡単にまとめてみたい。

1－脊椎の最終部分「尾骨」の元であった原始線条から胚全ての身体器官、神経器官が創造されるということ。

2－「尾骨」の元であった原始線条は破砕や煮沸といったことにも影響されず、死後も土の中で腐食せず、消え去ることはないということ。

3－「尾骨」の元であった原始線条は煮沸、破砕後も別の胚に移植すれば、また第2次胚を形成し、消え去ることはない。そしてここから最後の審判の日に人間が再生されるのである。

これらの新事実について、全く知られていなかった1400年前にハディースがその事実をこのような正確さで言及しているのは、預言者ムハンマドﷺがアッラーのによって啓示を受けた証明に他ならず、またその教えの正当性をも証明している。

動物

（34）アッラーは仰せられる。

﴿فَٱلۡتَقَمَهُ ٱلۡحُوتُ وَهُوَ مُلِيمٞ ١٤٢﴾

「すると、大魚（鯨）が彼を呑み、彼は自責の念に駆られた。」

（37.整列：142）

فَٱلۡتَقَمَهُ は、それを一口で口に入れる、の意である。

ٱلۡحُوتُ は海にいる巨大な動物で（それには独自の特徴がある）鯨のことである。

クルアーンによると、海には巨大な生き物が存在し、それは預言者ユーヌス（聖書のヨナ）（彼の上にアッラーの平安あれ）が乗った船が荒波に揉まれた時、海に落ちたユーニスを、骨を折ることも無く肉を裂くことも無く丸呑みする程の巨大さであった。その後その巨大な生物はユーニスを岸辺の近くに吐き出した。この「大魚が一口に彼を呑み」というクルアーンの一節の言葉はその生物の口の大きさと体の大きさを明示するものである。

そして現代科学でも、この巨大な魚、即ち鯨が原生動物中で最大の生物と認めている。長さは最大で約 33 メートルにも達し、その頭の大きさは身体の 4 分の 1、その歯のない大きな口は人間を楽々と飲み込むことができる大きさである。また呼吸をする時は海面に上がって口から酸素を体内に取り込むので、人間が鯨に飲まれても消化されなければ暫くは生きていられるという。これこそクルアーンに述べられていることである。

*　*　*

飛ぶ生物（虫）

（35）アッラーは仰せられる。

﴿... وَإِن يَسۡلُبۡهُمُ ٱلذُّبَابُ شَيۡـٔٗا لَّا يَسۡتَنقِذُوهُ مِنۡهُ ... ٧٣﴾

「・・また、ハエが彼らから何かを奪い去っても、それを取り戻すことはできない。・・」（22.巡礼：73）

يَسۡلُبۡهُمُ は、ひったくるの意である。

لَّا يَسۡتَنقِذُوهُ は、取り戻せない、取り返せない、の意である。

この句では、ハエが奪い去ったものについて述べており、この奪われたものは再び取り戻すことができないと我々に伝えている。

現代科学の発見によると、ハエがその口のホースから吸い取ったものは、直ぐに消化器官に分泌され消化されてしまう。その後は 2 度と取り出すことはできないのである。

クルアーンの何という厳密な用語の使いかたであろうか。何と細かな科学的真実の指摘であろうか。既に 1400 年前もの昔に！？

*　　*　　*

（36）アッラーは仰せられる。

﴿وَأَوۡحَىٰ رَبُّكَ إِلَى ٱلنَّحۡلِ أَنِ ٱتَّخِذِي مِنَ ٱلۡجِبَالِ بُيُوتٗا وَمِنَ ٱلشَّجَرِ وَمِمَّا يَعۡرِشُونَ ٦٨
ثُمَّ كُلِي مِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِ فَٱسۡلُكِي سُبُلَ رَبِّكِ ذُلُلٗاۚ يَخۡرُجُ مِنۢ بُطُونِهَا شَرَابٞ
مُّخۡتَلِفٌ أَلۡوَٰنُهُۥ فِيهِ شِفَآءٞ لِّلنَّاسِۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ يَتَفَكَّرُونَ ٦٩﴾

「また、あなたの主は蜜蜂に啓示した。山や木にそして（人間が）屋根をかける所に巣を営め（68）、そして、あらゆる果実を摂り、あなたの主の定めた道を坦々と生きよ、と。腹から分泌する種々の色の飲み物（蜜）には人間を癒すものがある。まことに、この中には反省する者たちへの印がある(69)。」（16.蜜蜂：68、69）

يَعْرِشُونَ は、(彼らが=人間) が屋根をかける、の意である。

سُبُلَ رَبِّكِ は、あなたの主があなたの為に用意した道、の意である。

ذُلُلًا は、単純に、容易に、の意である。

アッラーは、蜂を導いて山や樹、屋根をかけた養蜂所に巣を作らせ、各種様々な果実から栄養を摂らせた。蜜蜂の腹から出る様々な色の蜜は人間にとって大変栄養価が高く、治療にも大変有益なのである。

ここで強調しておきたいのは、この2つの節の蜜蜂へのアッラーの語りかけは男性形ではなく、全てアラビア語の女性形(ٱتَّخِذِى)、(كُلِي)、(فَٱسْلُكِي)で記されていることである。つまりメスの蜜蜂に対してのみの語りかけである。何と言う智恵であろうか?

その智は、現代科学が解明したことに通じている。その現代科学が解明したこととは:

1－蜂の巣において、オスの蜜蜂はメスの蜜蜂に比べ圧倒的に数が少なく、その役割も卵の受精が主である。それに対して、メスの蜜蜂の役割は、まず巣のリーダーであり、巣作りからその他の仕事の殆どはメスの蜜蜂が行う。よってこれらのクルアーンの節の命令形も全て女性形で明記されている。

2－メスの蜜蜂は、クルアーンの節に「あらゆる果実を摂り (كُلِي)、あなたの主の定めた道を坦々と生きよ (فَٱسْلُكِي)」とあるように、花の蜜を吸う為、花粉を巣に持ち帰る為、何十キロもの距離を飛ぶことができる。よって、これらに関係する命令形も全て女性形によって明記されていて (فَاسْلُكْ، كُلْ)といった男性形は使われていない。

3－メスの蜜蜂は、その腹から蜜を出すことができるので、そのことも当然女性形「彼女たちの腹から」と明記されている。

4－メスの蜜蜂から出る飲み物は蜜だけではなく、例えば液体状で出てきては、固まり、結晶化し、その後別種類の物に変化するようなものもある（これらはロイヤルゼリー・プロポリス・蜜蝋・蜂毒）。また同じ蜜においても、吸う花々の種類によって色や味は異なるのである。これはクルアーンにおいて「種々の色の飲み物」と言及されている通りである。

5－現代科学においてもメス蜂の色々な生産物の治癒性、様々な医学効果というのは既に解明されている。クルアーンの記述「それには人々を癒すものがある」の通りである。

クルアーンの何という厳密な用語の使いかたであろうか。命令形の動詞に 1 字を付け足しただけで（男性形の動詞が女性形になるのだが）現代になるまで解明されていなかったこれらの学術的真実を、既に1400年前に明示していたのである！

* * *

植物

(37) アッラーは仰せられる

﴿وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً فَأَخْرَجْنَا بِهِۦ نَبَاتَ كُلِّ شَىْءٍ فَأَخْرَجْنَا مِنْهُ
خَضِرًا نُّخْرِجُ مِنْهُ حَبًّا مُّتَرَاكِبًا... ﴿٩٩﴾﴾

「また、**彼**こそは天から雨を降らす御方。**我**はこれによってすべてのもの(植物)の芽を萌え出させ、次いでそこから緑を萌えさせ、次々に穀物を実らせる。・・」（6.家畜：99）

خَضِرًا は、柔らかな緑のもののことである。

حَبًّا مُّتَرَاكِبًا は、次から次へと穀物をみのらせる、の意である。

このクルアーンの節では、水は植物の成長の元としており、どのように植物が地上に現れるのか述べている。植物一般を成長させる要因は、植物

に内在する緑の物質によるもので、その働きで穀物を実らせるのである。

そして現代科学も、クルアーンのこの節が示したクロロフィル、即ち葉緑素の存在価値を認めた。クロロフィルはアッラーが「緑の」と言及したように緑の色素によって植物を緑色に見せ、光合成において主な役割を果たし、二酸化炭素を吸い込んで我々人間と動物全てに必要な酸素を排出している。同様に太陽光で造ったエネルギーを化学的なエネルギーとして貯めておく働きがあるのである。

それ故、クルアーンで述べられているこの緑の物質の、光合成において果たしている役割と、そして果実と穀物を実らせる役割は明白である。

この素晴らしい学術的真実は 1400 年前にもうクルアーンで述べられていて、それが現代になるまで発見されていなかったのである。

* * *

これまで、科学が未発達であった時に、誰もそのような知識を持たなかった 1400 年も前からクルアーンに書かれていた事実を、徐々に現代科学が解明したことの例を簡単に見てきたが、クルアーンやハディースには様々な科学的証明、科学的事実が明記されている。詳細を知りたい方は是非以下の文献を参照されたい。(いずれもアラビア語)

1 — من آيات الإعجاز العلمي (السماء، الأرض، الحيوانات، النبات) في القرآن الكريم، للدكتور/ زغلول النجار

ザグルール・エル-ナッガール博士『クルアーンにおける科学に関する奇跡の印から（天･地･動植物）』

2 — الأجزاء ١-٢-٣ للإعجاز العلمي في السنة النبوية للدكتور/ زغلول النجار

ザグルール・エル-ナッガール博士『預言者のスンナ(慣行)における科学に関する奇跡について）1･2･3 部

3 ー موسوعة الإسلام والعلم الحديث، الإعجاز العلمي في القرآن الكريم- للدكتور/ زغلول النجار

ザグルール・エル-ナッガール博士『百科イスラームと現代科学、クルアーンにおける科学的奇跡』

4 ー كتاب علم الأجنة في ضوء القرآن والسنة بهيئة الإعجاز العلمي للقرآن والسنة بمكة المكرمة

クルアーンとスンナの科学的奇跡委員会(メッカ)『発生学の書・クルアーンとスンナの光の中で』

5 ー إعجاز القرآن فيما تخفيه الأرحام، للأستاذ/ كريم نجيب الأغر

カリーム・ナジーブルアグル教授『子宮に隠されていたクルアーンの奇跡』

﴿ سَنُرِيهِمْ ءَايَٰتِنَا فِى ٱلْءَافَاقِ وَفِىٓ أَنفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ ٱلْحَقُّ... ٥٣ ﴾

「我は我が印を、天と地の間において彼ら（不信仰者）自身の中において、示して見せる。彼らにそれ（クルアーン）が真理であることが明らかになるように。本当にあなたの主はあらゆることの立証者であられる。このことだけでも十分ではないか？」

クルアーンとハディースが現代科学に先行する理由

これまでクルアーンとハディースに明記された驚くべき科学的事実について言及してきたが、それらはそのような知識・情報がなく、未だ血筋が全てにおいて優先される閉鎖的な部族社会であったアラビア半島で 1400 年前に記されたものである。

ここで我々は次のような疑問を持たざるを得ない。

当時文盲だった預言者ムハンマドﷺに、一体何がこれらの科学的事実を知らせ、言及させたのか。

そのような知識・情報のなかった 1400 年も前の時代に、周りには彼を敵視する不信仰者や敵がひしめく状況だったにも拘らず、一体何が、預言者ムハンマドﷺにこれらの科学的事実を極めて詳細に述べさせたのだろうか。

もしこれらの疑問に答える回答があるとすれば、次のようなものになるのではないだろうか。

これらの言葉は預言者ムハンマドﷺ自身の言葉ではなく、啓示を通して語られた万有の主、全知全能の創造主アッラーの言葉なのではないか。そうであるなら、これらの言葉が、現代に入ってから初めて証明された科学的諸事実に一致するのも考えられないことではない。そしてこれらのクルアーンとハディースがムハンマドﷺを通して、語られたという事実は、彼が預言者であり、神の使徒であることの証明でもある。そうでなければ、当時一介の商人でしかなかったムハンマドﷺがこれらの情報を持ち得たとは到底考えられないからである。

クルアーンとハディースについての様々な分野の科学者たちの証言

これまで、様々な分野の様々な国と地域の多くの学者たちが、現代科学が解明した諸々の事実について1400年前に書かれたクルアーンとハディースに既に示唆されていたことを目のあたりにし、その真実性を証言している。以下にその科学者たちの証言の抄訳を紹介する。

１－　キース・L．ムーア教授（Prof.Keith L. Moore）：カナダ・トロント大学、解剖学部長。カナダ・アメリカ解剖学・発生学連合部長。

彼は世界で最も高名な解剖学者の１人であり、これまで世界８ヶ国語に翻訳された書「Developing Human」（邦訳「人体発生学」）の著者でもある。クルアーンの章句に詳細に明記される母親の胎内での胎児の成長に触れ、モスクワでの記者会見にて、クルアーンの言及の正確さとその詳細は未だ現代科学が到達していないものだ、と述べ、「あなたはムスリムですか？」と尋ねられると「いいえ、私はクルアーンが神（アッラー）の言葉であり、ムハンマドがその使徒であることを信じています。しかし私には家族、知人との関係もありますから、ここでそれを公表することはできません。しかし私がいつの日かイスラームを受け入れたとしても、決して驚かないで下さい。」と述べた。

その後、ムーア教授ははっきりと次のように述べた。

「これら明快な証拠の数々は間違いなく人間のものではない。それはムハンマドが神の使徒であることを物語っている。」

そして、クルアーンの記述にある胎児の創造の過程を指摘した著書「Developing Human with Islamic Additions」を記し、それは今では何度も版を重ね、学者たちの手元に届いている。それは人々をイスラームへ導く書として大きな効果が期待できるだろう。

２－ジョー・リー・シンプソン博士（Prof. Joe Leigh Simpson）：専門は産婦人科。シカゴ・ノースボストン大学教授。

３－T.V.N. ペルサウド博士（Prof.T.V.N.Persaud）：カナダ・マニトバ大学・解剖学部長。小児科また産婦人科の分野において有名な著作者でもある。

この２人の教授はハディースの以下の２箇所の記述に大いに関心を惹きつけられた。

（１）預言者ムハンマドﷺは言われた。

« إذا مرّ بالنطفة ثنتان وأربعون ليلة بعث الله ملكا فصورها وخلق سمعها وبصرها وجلدها ولحمها وعظامها »

「もし受精後42日が過ぎたなら、アッラーは天使を送り、胎児の形を創り、聴覚、視覚、また皮膚、肉体、骨を創る。」（サヒーハ・ムスリム＃2645）

アッラーに讃えあれ。今日我々が当時預言者ムハンマドﷺが言及した数、数字に注目するならば、彼が紛れもなくアッラーの使徒であることが理解できるだろう。胎児は７週目に入らなければ、（つまり４２日を過ぎなければ）人間の形にはならないのだ。ここで我々はハディースが伝える、فصوّرها の意味を理解するだろう。つまりアッラーが人間の形に創る、ということである。このような正確な指摘が単なる偶然によって起こり得るだろうか。

（2）－預言者ムハンマドﷺは言われた。

« إن أحدكم يُجْمَع خلقه في بطن أمه أربعين يومًا»

（あなたがたの誰もが40日間、母親の胎内で五体を整えられる）

（サヒーフ・ル・ブハーリー＃3208）

ここでも預言者は母親の胎内で子供が形作られる期間について述べている。

初めのハディースでは精液の状態と創造について触れており、２人の学者は大いに関心を惹き付けられた。

﴿ مِن نُّطْفَةٍ خَلَقَهُۥ فَقَدَّرَهُۥ ١٩ ﴾

「一滴の精滴から彼を創り、それから五体を整えられ」

（80.眉をひそめて：19）

この精滴から髪の色、皮膚の色等の人間の個人的特徴を読み出すことが可能である。つまり、受精卵の核中の染色体によって全てが解明できるのである。

ジョー・リー・シンプソン博士はある学会で述べている。

「宗教が科学を先導することもありうる。正にそれ（クルアーン）が神からの言葉だからである。」

ペルサウド博士は次のように述べている。

「預言者ムハンマドﷺの、科学的事実についての驚異的な正確さを持った学識深い言明の数々は決して偶然にして起こるようなものではない。寧ろ啓示や神の「お告げ」のようなものだと考えるべきだ。」

４ーE・マーシャル・ジョンソン博士(E. Marshall Johnson)：解剖学・発生生物学名誉教授。アメリカ合衆国トーマス・ジェファーソン大学、ダニエル・ボー研究所所長を22年務める。

彼は「肉塊（胎芽）」の内部構造について説明した後、「肉塊（胎芽）」の２つの部位について剖検後に２つの部位を指しつつこう言った。

「一方の部位は既に身体の器官の一部に形作られているが、もう一方の部位は形作られていない。このことは、胎芽は身体器官が形成される部分のみか、器官形成されていない部分のみから成っている、と言うのは科学的ではない。従って、科学的に胎芽の構造について次のようなクルアーンの言説以外の説明はできないのである。」

﴿...ثُمَّ مِن مُّضْغَةٍ مُّخَلَّقَةٍ وَغَيْرِ مُخَلَّقَةٍ...﴾

「‥更に創造(形成)の起こる部分と起こらない部分からなる肉塊に‥」（22.巡礼：5）

５ー香西義英博士：東京大学名誉教授、東京天文観測所所長。

現代の科学が解明したことについてクルアーンが正確に示していることを知り得た後、

「私はクルアーンの天文学分野での記述にとても驚いています。クルアーンを非常に正確に、その詳細とともに読めば、全宇宙の創造といった天文分野でも多くの事が理解できると考えます。」と述べた。

６ージェラルド・G・ジョーリンガー博士（Prof. Gerald G. Goeringer）：ワシントンD.C.・ジョージタウン大学医学部・細胞胞生物学部医学人体発生学科助教授

クルアーンの翻訳を読んだ後、「クルアーンには人間の発生から成長までが事細かに正確に描かれている。このような本を目にするのは初めてだ。」と話した。

7ーアルフレート・クレナー博士　(Prof. Alfred Kröner)：ヨハネス・グーテンベルク（ドイツ・マインツ）大学地理学教授

「かつてアラブの地は、今日見られるような渇いた砂漠の土地ではなく、緑溢れる農耕に適した土地だったのでしょうか？」と問われ、「はい、何千年も前の氷河時代はそうでした。」と答えている。また、「アラブの地はかつてのような肥沃な土地に戻る可能性はあるのでしょうか？」と聞かれ「はい。（北半球で）雹嵐が年々増加していますが、北半球の氷が南下し、（湿潤気候帯が赤道付近まで南下すれば）その可能性はあります。」と、答えている。

その他にも地理学者がこの結論に導く事実を考察している。

ハディースも次のように伝えている。

« لا تقوم الساعة حتى تعود أرض العرب مروجا وأنهارا »

「アラブの地が川の流れる緑溢れる土地に戻るまでは審判の日は訪れない」（ムスリム）

アラブの地はその昔、緑溢れる肥沃な土地で、農業にも適していた。アラブの地はまたいつの日か緑が豊かな川が流れる豊かな土地に戻るだろう、とハディースでも伝えられている。またクレナー博士は、「今日の渇いた砂漠の土地を昔のような肥沃な土地にするのはなかなか想像し難い事だが、現代の科学技術を持ってすれば不可能ではない。」、更に「今日の科学技術を持ってすればムハンマドﷺの言葉を実証するのは不可能ではないし、

彼の言葉は神からの啓示以外に有り得ない。」と話した。

8 ーテジャタート・テジャセン博士（Prof. Tejatat Tejasen ）：タイチェンマイ大学医学部長、解剖学部主任教授

2 年間クルアーンに書かれた奇跡について学び、ある学会において、1400 年前に書かれたクルアーンに現代科学が証明したような詳細な記述があることについて語った。

「これらは私に、クルアーンの章句は神の啓示を預言者ムハンマドﷺが語ったものであることを確信させ、私はムスリムになりました。アッラーの他に神はなし、ムハンマドはアッラーの使徒である。

これら全ての科学的証拠を知った後、私たちはもう一度考えてみてもいいのではないでしょうか？1400 年前には誰も知らなかった、現代になりやっと解明された新しい情報が、何かしらの偶然によってクルアーンに明記されていたなんてことがあり得るでしょうか？勿論答えは否です。それはクルアーンが神の言葉であるという証明でもあります。」

（これらの学者たちの信仰告白またはイスラームへの言及はインターネット動画を通して見ることができる。

(http://www.islam-guide.com/jp/ch1-1-h.htm)

また、未紹介であるが、他の様々な分野の学者たちもまたイスラームの奇跡に触れ、イスラームが真実の宗教であることを認めている。

クルアーンこそアッラーの書・奇跡であり、審判の日までイスラームが生き続けると証言するものである。

◈ ◈ ◈

宇宙の法則とイスラーム法の調和を支持する現代科学が解明したいくつかの真実とその証拠

アッラーは最後の預言者をイスラームとともに遣わした。イスラームはアッラーへの崇拝行為への導きと正しく生きるための法（規則）を含んでおり、それは人間の清純な本性と真っ直ぐな理性にも沿い、アッラーが創造した宇宙の法則とも一致する。

預言者ムハンマドによってもたらされた、アッラーへの崇拝行為と法からなるイスラームの中に、神の家＝カアバ神殿の周りを回る崇拝行為タワーフがある。タワーフはイスラームの崇拝行為の柱、六信五行のうちの１つ巡礼（ハッジ：犠牲祭に行われる、イスラム教徒の義務としての巡礼。即ち、聖地マッカのハラームモスクとその周辺地域への巡礼）と、義務でない聖地巡礼（オムラ）の際に行われる。

カアバ神殿を周回するタワーフは特定の場所（黒石の位置）からスタートし、カアバ神殿を反時計周りに７周するのが巡礼における勤めである。

現代科学は、このタワーフが物質を構成する極小の原子のレベルから、極大の天に浮ぶ惑星や星々、星雲に至るレベルまでの宇宙の秩序と調和したものであると解明した。その事実の詳細は以下の通りである。

１－全ての物質を構成する原子には原子核が在る。この核の周りをを電子が７段階（K，L，M，N，O，P，Q）　のエネルギーに分かれて廻っているのである。これは正にカアバ神殿を巡礼で周回する回数と同じである。

そしてこの周回は反時計回りで、これもカアバ神殿の周回と一致する。

2－受精後の卵子の動きも反時計周りである。

3－地球の自転も反時計回りである。

4－地球の公転も反時計回りである。

5－太陽の自転も反時計周りである。

6－太陽系の惑星も太陽を反時計周りに回る。

他の惑星や恒星や銀河もそうである、つまり万物全てがアッラーを讃え反時計周りに運動をしているのである。それはアッラーの啓示によるクルアーンと神の教えに見事に一致する。

アッラーに讃えあれ。これこそ預言者ムハンマド ﷺ を遣わし、万物全てを見事な調和によって創造されたアッラーの御力である。

イスラーム法と現代科学の発見、そしてその証拠

アッラーが命じ、薦めているイスラームの法の例

イスラームは全人類への恵みにみちた優れたイスラーム法を伴なって天より下された。それはアッラーが命じたり薦めたり禁じたりすることから成っており、生きていく上で必要な全てのことにおいて人類を正しく導いている。

アッラーがその遂行を命じたことと、薦めたことの例

〇平伏礼（サジダ）

アッラーはイスラム教徒に１日５回の礼拝を命じている。（６信５行の１つ）イスラム教徒は毎日５回身を清めた後礼拝に立ち、現世と来世での徳・栄光を祈りながら、アッラーを讃え、敬虔な思いでその額を地面につける。そしてアッラーは預言者ムハンマドﷺに告げた諸々の条件（日常生活における諸々の規定、飲食の仕方、服装規定等）を我々が満たすことで、我々の祈りを聞き容れることを約束なされた。

現代科学の発見によると、礼拝の際に額を地面につける動作は、人間の身体の中の余分な電荷（電気量）を地面に逃がす働きを持っているという。そして人間の身体の一部が地面と接地することによって、身体の中の電荷が地面に放出される。こうすることによって、人体に悪影響を及ぼす偏った余分の電荷から引き起こされる数々の身体的、或いは精神的な病からの保護になるのだという。

例えばガソリンを運ぶタンクローリーは常に爆発の危険性と隣り合わせだが、アース線が用いられ、接地によって偏った電荷は大地へ逃げてい

く。これによって感電による爆発を防いでいるのである。

なんとアッラーの命令が賢明かつ合理的で全人類への恵みに満ちていることか。

アッラーが禁じたイスラーム法の例

1－ライオンやトラのような牙を持つ動物の肉の食用の禁止、また鷹や鷲のような爪を持つ鳥、また病気や負傷した鳥肉の食用の禁止

2－イスラーム法に則った屠殺方法（頚動脈を切り体内の血全てを排出させる）以外の方法で屠殺された鳥、動物の肉の食用の禁止

3－豚を食用にすることを禁止

4－アルコールの摂取の禁止

既に言及したように、アッラーは全人類の為に預言者ムハンマドﷺを遣わされたのである。

﴿...وَيُحِلُّ لَهُمُ ٱلطَّيِّبَٰتِ وَيُحَرِّمُ عَلَيۡهِمُ ٱلۡخَبَٰٓئِثَ... ١٥٧﴾

「･･･彼らに一切の善い（清い）ものを合法とし、悪い（汚れた）ものを禁じ、･･･」（7.高壁：157）

現代科学の発見

1－人間は食べた動物や鳥の肉の性質を受け継いでいく。それは人間の行動に大きな影響を及ぼすのである。例えば肉食動物が猟に出る時、その身体にホルモンが分泌され獲物を獲得するのを手助けする。そして狩ったものを食べる時にこの動物の身体に分泌されるホルモンは、精肉された食肉を与えられた時にも分泌される。トラやライオンなどの興奮時に見られる神経の動きは、餌として与えられた動物を、切断する時にも見られ、明らかに顔

が硬直し憤慨しているのが見て取れるのである。そしてこれらの野生肉食動物の肉を食べる人間は、元来の自然の本能が変化し、より攻撃的で暴力的になる。それ故イスラーム法の知恵によってこれらの牙を持つ動物の肉、また爪を持つ鳥、負傷した鳥を食すことは禁じられたのである。

２－動物の死肉を食べることは病気の原因になる細菌の感染につながる。

― 人間はこれらの死肉を食すだけで病気に罹る恐れがある。

― これら死んだ動物の血管に廻っていた血液が、病気の原因となる細菌の増殖をたやすくさせ、その菌が繁殖した死肉を人間が食べることによって菌が人間に感染するため、イスラームでは、イスラーム法に則った方法で屠殺される前に死んだ動物の肉を食べることを禁じている。死亡時から残留していた血に病原菌･細菌が広がっているかもしれないからで、病気の感染を防ぐ意図がある。

３－豚肉には多くの病原菌が存在し、豚水胞病・寄生虫（線虫）・肝臓寄生虫（条虫）・Ｅ 型肝炎といった病気の原因になり得る。その原因は豚が穢わしい死体や糞尿を食べる動物で、尚且つ自らの糞尿をも食べるからである。このような動物がその行動を制御するのは極めて困難である。何故なら豚はもともと野生の動物で、ある種の昆虫のように自然の掃除屋として屍骸や糞尿を片付けることが彼らの役割だからである。言い換えれば彼らの身体の中は「病源菌の巣窟」である。

また、生態学者が言うには、人も豚も動物蛋白と植物を主に食すので、同じ種類の食物を摂取する動物同士、病気の相互感染が起こる。それは他の

草食の家畜の肉の摂取からは起こりにくい。豚は食用にするには危険な動物なのである。

現代科学の発見によると、豚の油脂には胃に消化されない物質、肝臓で蓄えられない物質が含まれており、これらが人間の身体の中で混合し、心筋症のような様々な循環器疾患病につながっていくのである。

よってイスラームでは豚肉を食すことを強く禁じているのである。

イスラーム以外の他の宗教（キリスト教他）が豚肉を食べることを許す中で、イスラームではこのような穢れた肉の食用を、様々な病気から人間を守る為に禁じている。こうしたことは、勿論過去には誰も知らなかったことで、預言者ムハンマドﷺが神によって遣わされたことの証明でもある。

４－更に、イスラームでは人間の理性を失わせるアルコールの摂取を禁じている。それは自分の行動を制御する力を失わせ、意識を失ったり、皆の笑い者になったりし、性欲と本能に歯止めが利かなくなり、狂ったように行動し、果ては姦淫やレイプ、窃盗や殺人といった罪を犯すまでに至るからである。それは全くもって人間的な行為ではない。森に住む動物のようなものである。更にアルコールは人間がこの世に生きる目的（唯一神への崇拝行為の実践、神の命令への従順、地上に善を広め不正を忌避する、等）までをも失わせる。

現代科学の解明によると、多くの疾患が飲酒が原因で引き起こされる。例えば不整脈、肝炎、脳組織と記憶への悪影響、等である。

キリスト教や他の諸宗教が飲酒を禁じていないのに対し、イスラームでは飲酒を禁止し、神が人間に授け給うた理性が失われるのを防いでいる。理性が失われれば、見当もつかないことをし、上記のような様々な罪を犯す可能性が出て来るからである。

　これらの飲食に関する禁止事項によってイスラームは人間を様々な病原体から守り、また理性の重要性を説き、知識の道へと導いているのである。

　以上簡単にイスラームに含まれる、人類の「人間的」な生活を守る数々の英知を紹介して来たが、これらはあくまで数あるうちのほんの一部である。

　イスラームの教えは完全で、それは人間の日常生活のあらゆる局面に対応しているのである。

◈　◈　◈

預言者ムハンマドﷺの預言とその書クルアーンの証拠（大要）

● 預言者ムハンマドﷺによって伝えられたアキーダ（信仰箇条）

― 万物の創造主への信仰。

― 万物の創造主の唯一性への信仰、彼は産まず、産まれず、比類なき御方であられる。

― 創造主アッラーの偉大で美しい特性への信仰。その性質は全て善であり、また彼は完全無欠の智恵、無限の能力を持つ。

― アッラーが公正であられことへの信仰。アッラーは塵ほども不条理を成さず、悔悟を受け入れ、懺悔し帰依する者にはそれを受け入れ、正しい道を示される。

― 人間の無知とアッラーへの軽視（尊敬と賛美の姿勢がないこと）が原因で着せられた醜悪で非難されるような性質にアッラーは無縁であること。

― アッラーは、妻を娶った、子がいる、随伴者（精霊）がいる、似た者或いは神の性質と対等の者がいるというような、埒も無い性質から潔白であること。

― 預言者とその使徒たちに対しての信仰。彼らを神に祭り上げることなく尊敬すること。

ユダヤ教徒たちがマルヤム（イエス・キリストの母）とマルヤムの子イーサー（イエス）を中傷し、彼は姦淫の子だと言いふらして、その福音を

拒否した時、キリスト教徒たちが彼（イエス）が他の人達と同じように飲み食いし、眠り、排泄する人間であったにも拘らず、彼を神格化し崇拝し始めた時、アラブの民に預言者ムハンマドﷺが遣わされた。彼の教え（イスラーム）は中道で、人間の本性を認め理性を評価するものであった。ユダヤ教のようなマルヤムを過度に貶めることもなく、またキリスト教のようにイーサーを過度に神聖視することもない、イスラームでは神の唯一性（タウヒード）を説き、イエス・キリストには神の性質はないとしている。彼は他の人間と同じ人間だったのであり、神の啓示によって預言者になられたのである。

— 自然崇拝、偶像崇拝をしないこと。

— アッラー以外の被造物を崇拝しないこと。それは時に人間や石や木や他の森羅万象のものであるが、そういったものへの崇拝は多神教であり、例えば、キリスト教徒たちがイエス・キリストを人間だったにも関わらず神格化して崇拝していたり、イスラーム以前のいにしえのアラブ人が石や偶像を拝んでいたようなものである。

— アッラーを誠実に崇拝すること。アッラーに何者をも同等に配さないこと。預言者ムハンマドﷺは完全なるアキーダ（信仰箇条）とともに遣わされ、その道においてあらゆる敵や困難と対峙され、アッラーの勝利が来るまで耐え忍ばれた。

もし彼が神から遣わされた預言者でなかったならば、彼を人々の宣教へと導いたものは何だったであろうか。様々な困難と不信仰者や敵と対峙しながらも、全人類に対しその天性と理性が納得できる唯一神崇拝を説いた預言者。そういったことは間違いなく預言者ムハンマドﷺとアッラーの教えへの信頼に我々を導くものであろう。

● 預言者ムハンマドﷺの寛大で実直な性格。（預言者ムハンマドﷺが啓示を受ける前から誠実な人と呼ばれていた）、彼は羞恥心があり、善良で気前良く、恩恵を施し、慈悲があり、親類を大切にし、誠実で利他主義、、公正で理性的、勇敢でありながら柔和、へりくだった態度で、 忍耐があり、人の意見を聞き、節度があり、敬虔であり、社会と仲間と良い関係を保ち、親切であった。

● 預言者ムハンマドﷺはアラブの最も由緒正しい一族の出であったが、それは最後の預言者・使徒としてアッラーが彼を選んだ理由の一つである。（というのも、彼の祖父は人望が厚く民の代表に選ばれるほどであったし、先祖たちは善良さと行いの正しさでよく知られていた。人々にとって、そのような尊敬すべき家族出身の誠実なムハンマドの呼びかけやその書が真実であることを信頼しやすかったのである。）

● 預言者ムハンマドﷺは誰よりも早くイスラームが求める最善の行いをし、親族に良くし、崇拝行為に身を投じ、常にアッラーの名を唱念していた。

● 彼は常に現世での欲望、快楽から距離をおき、節制と節度を持った良き手本だった。不信仰者たちが預言者ムハンマドﷺを現世の快楽に陥れようとした時も、現世の快楽の華美な面に捕らわれることなく、アッラーの命じた崇拝行為を実行し、アッラーの名を唱念された。これこそ彼がアッラーによって遣わされた最後の預言者であり、その教えの正当性を実証するものであろう。何故なら彼が現世の愉しみを拒否する理由はないからである。

● 預言者ムハンマドﷺのこの世の人々への慈悲と、どんな動機であれ預言者に追従する全ての者への祝福は、アッラーのムハンマドへの支持

を証左するものである。

● 預言者ムハンマドﷺへのアッラーの支持：祈願を（ドアー）聞き入れられたことは、ムハンマドの布教の正しさを確証するためである。

● 預言者ムハンマドﷺの行った数々の奇跡が確証を得たことは、彼が預言者であることを証明している。

● クルアーンが過去に一度も改ざんされずに、現在まで保たれていることは最大の奇跡であり、時代や場所を問わず、その章句の内のたった1節であれ、現代科学がようやく証明することができた事実について述べ、それを詳細且つ表現豊かに表しているのは、正にクルアーンがアッラーの啓示によって下された啓典であることの証明に他ならない。

● 当時、アラビア半島に跋扈していた数々のイスラームの敵との闘いに預言者ムハンマドﷺが勝利し得たのは、イスラーム布教の為のアッラーの助力に他ならない。

● 預言者ムハンマドﷺが啓示を受けたのが40歳の時で、彼がこの世を去ったのが63歳の時であるから、布教をしたのは23年の期間に過ぎない。それにも拘らず、彼が実権を握り、当時アラビア半島で支配的だった多神崇拝や悪習を取り除き、イスラームを広め根付かせた範囲は、他の王或いは支配者が支配した版図を大きく凌ぐものである。これもアッラーからの助力であり彼が預言者であることの証明であろう。

● 預言者ムハンマドﷺは常に温厚で柔和な態度で皆に接し、アッラーの存在が否定された時以外は決して怒ることがなかった。その笑いは微笑む程度で高笑いすることはなく、無駄口をきかず、過度な冗談は避け、正しいことだけ話した。その他諸々ある特筆すべき性格は、彼がアッラーから

遣わされた最後の預言者であることの証明である。

● ここで預言者ムハンマドﷺの外見上の特徴について簡単に見てみよう。

その目は輝くようで、色白の顔は少し赤みを帯びていた。顔の輪郭は満月のようで、目元はまるでアイラインを引いたように美しかった。目は大きくはっきりしていて、睫毛は長く、眉毛は薄く長かったがつながってはいない。その額は広く、鼻は細く、その唇は整い、前歯に少し隙間があり、話すとそこから光が出ているように見えた。その髪は黒く、髪質は直毛とくせ毛の中間程度、首は純銀のようで、顎髭は真っ黒だった。（年をとると、若干白髪が混ざったが）身体は頑強で、背丈は高くも低くもなく、肥満でも痩せてもいなかった。その胸板は広く、お腹は引き締まっていた。大巡礼（ハッジ）や小巡礼（オムラ）で身体の一部が露わになると、その肌は白く輝くようだった。その他にも預言者ムハンマドﷺの美しい特徴は数えきれない程であるが、こうした特徴も彼がアッラーによって選ばれた最後の預言者であることの証明であろう。

高名な学者たちの最後の預言者・使徒ムハンマドﷺについての証言例

1－ラ・マルティーン（フランス人作家・歴史家、1790～1869）は以下のように言った。

「預言者ムハンマドﷺは賢人で哲学者で、雄弁な演説家で学識溢れる使徒でもあり勇敢な戦士で、学者であった。そして中東の地に広大な共同体「ウンマ」を設立した。もし我々が偉大なこれらの性格を備えた指導者を探すとしたら預言者ムハンマドﷺをおいて他に存在しない。」

2－トーマス・アーノルド（英国オリエンタリスト・1864～1930）は言った。

「ムハンマドﷺは他の指導者と同じように指導者として権力を振るい始めたが、彼らと異なっていたのは宗教による人々の結びつきであった。ムハンマドﷺは当時のアラビア半島、彼の生まれ故郷の地の政治体制を崩壊させ、部族、血統を超えた新しい人間関係を生み出し、政治的システムを創りだし、アッラーの唯一性という教えのもとに、従来の部族制を万人に平等なシステムへと作り変えた。」

3－マイケル・H・ハート（米国人著作家・天体物理学者『歴史を創った100人(邦題)』著者　1932～）

「ムハンマドを歴史上で最も重要で偉大な人物に選んだのは、彼が世俗と宗教の両方で大成した人物だからで、全ての人々が彼の生きているうちに彼を信じ、その宗教に沿って新たな国を興し、部族を人民に、人民を共同

体に関係付け、共同体の全ての生活の基礎を築き、イスラームを世界へ広げる足掛かりをつくった。彼は正に宗教的・世俗的メッセージを発動し作り上げた人物であった。」

4ーイヴリン・コッボールド（スコットランド貴族出身の詩人・著作家　英国婦人初のメッカ巡礼者。　1867-1963）

「これこそがメディーナ、神の使徒の町。『アッラーの他に神は無し』という信念のためムハンマドﷺが尽力したことを思い起こさせ、アッラーの唯一性を説いたがために彼ﷺが迫害に遭う苦難を耐えたことを感得させる。」また彼女には「イスラームは良識の宗教である」とのコメントもある。

ブリタニカ百科事典　第 11 版：　預言者ムハンマドﷺは最も秀でた宗教的人物で、彼が世に登場したのは正に「激動」のアラビア半島であり、当時アラビア半島にはこれといって目立った宗教教育が行われておらず、閉鎖的な部族社会の中で、部族同士お互いに憎しみ合い、争いや紛争が絶えなかった。ユダヤ教やキリスト教のあらゆる試みもその状況を変えることはできなかった。しかし預言者ムハンマドﷺがアッラーによって全人類に遣わされ、ほんの数年という期間をもって当時アラビア半島に蔓延っていた悪習を取り除き、アラブ人たちを多神崇拝からタウヒードへ、正しい道へと導き、アッラーの御言葉を広め、そのアッラーの御言葉に基づいて人々が行動する社会へと変化させたのである。

何故彼らはムスリムになったのか？

既に至高のアッラーは多くの科学者たちを時を得てイスラーム教徒にし、ムハンマドが預言者で神の使徒であり、その書クルアーンを信じるよう導いた。これら多くの改宗者の例からいくつかを紹介し、優れた人々である彼らがアッラーから与えられた理性をどう使ったのか明示したい。

イスラム教徒になった科学者たちの例

１－ガーリー・ミラー　数学者でキリスト教徒だった教授、

彼は「この宗教の明瞭さに惹かれました。このような明瞭さは他のどの宗教にも見当りません。」と言う。

ある日、彼は間違いを見つけてムスリムをキリスト教に改宗させてやろうとの意図でクルアーンを手に取り読んでみることにした。彼が想像していたのは砂漠の事とか、彼の身に起こった妻や息子の死について書かれた1400年前の古い一冊の本であった。しかし、読んでみて彼は驚愕した。そこで目にしたものは他の本では決して見ることのできない内容のものだった。

クルアーンにはマリヤム（聖母マリアのこと）章という章が設けられていて、マリヤムに対する敬意を感じた。それは福音書やキリスト教の他の本にも見られないものだった。（聖書にマリアという章はない）

アーイシャ章もファーティマ章もないのにクルアーンにはマリヤム章という章があって、同様にクルアーンの中でイーサー（イエス）の名は２５回唱えられるが、預言者ムハンマドﷺの名前自体は４回だけであった。（自分の妻や娘の名の章を書けたかもしれないが書かなかった。なぜなら預

言者はアッラーの啓示に誠実に語ったからである。）

これこそクルアーンがムハンマド自身が書いた物ではなく、アッラーの啓示であることの証明ではないだろうか。クルアーンは聖書に反するものとして下されたのではなく、預言者ムハンマドﷺを通してそれを実証するためのものなのである。

２－ファンスーン・モンテ

「クルアーンは私にキリスト教の歴史についても明快に説明してくれます。キリスト教は初期の時点ではイスラームとさほど離れた教えではなく、西暦３２５年のニケーア会議以前はイエスは神ではなかったのです。しかしその会議においてイエスは神に祭り上げられてしまいます。イスラームによれば彼も私たちと同じ人間であったのに。」

３－ムハンマド・アサド（リューボルド・ファーイス）

「ムスリムたちが行う集団礼拝の皆の規律ある一連の動きに驚きを覚えました。そこで私はイマーム（導師）に尋ねました。

『本当に貴方は立礼や平伏礼によって、私たちの信仰を見せることを神が望んでいると思っているのですか？それよりも自分の中だけにその思いを秘めて心の中で神を崇拝すれば良いのではないですか？』

『それではどのような方法で神への崇拝が可能だと思いますか？神は魂と身体両方を創造されたのではないですか？ならば、心と身体で礼拝しなければならないのでは？』

『それから、その導師は私にそれぞれの礼拝の所作の意味を教えてくれ、それは私のイスラーム入信のきっかけになりました。』」

上記に述べたことは、ほんの数例に過ぎないが、万有の主アッラーの導きによって生きることを決意した者たちの言である。

全ての称賛はアッラーにのみ属する。我々の心を開き、万有の主アッラーとその使徒ムハンマドﷺに従う者として下さいますように。

終りに

これまで、現代科学が明らかにしたことの多くが、誰一人としてそうした知識や情報を知り得なかった1400年以上前に、既にクルアーンや預言者の言行録に示されていた、というイスラームの先進性を通し、預言者ムハンマドの預言とクルアーンが真実であると確かめてきた。それは、天と地の万有の主であられるアッラーから啓示と教えが預言者ムハンマドﷺに下った証拠の一つと言えるだろう。

本書の最後で預言者ムハンマドの預言とその書の証拠（のうち概要）を追加として示した。

預言者ムハンマドﷺのイスラームへの導きの正しさ、その書クルアーンの真実性を証明する数々の証拠・証明・検証は、実に預言者ムハンマドの永遠性とその勝利とに固く結びついているのである。正に至高のアッラーが預言者ムハンマドにこう仰せられたように。

﴿...إِلَّا تَنصُرُوهُ فَقَدْ نَصَرَهُ ٱللَّهُ...﴾

「たとえ不信仰者たちが彼(預言者)を助けなくても、アッラーは必ず彼を助け給う。・・」（9.悔悟：40）

◈ ◈ ◈

メッセージ

我々は預言者ムハンマドﷺの呼びかけとその書クルアーンの正当性が明確になった今、その教えをより深く知り、その信仰を固持し、この時代に合ったあらゆる方法で布教活動を実践しなくてはならない。ここに、今まで実践されてきた布教活動のいくつかの方法を見てみようと思う。

1－様々な言語でイスラーム布教の書籍の出版し、各文化センター、一般図書館、大学等へ領布する。

2－様々な言語でインターネット上に布教の為のサイトを開設する。

3－衛星放送で布教チャンネルを開設し、大国が流す反イスラーム番組へ対抗する。

4－意図的に作られた反イスラームサイトとイスラームを騙るサイトへの反論と、イスラム教徒自身とそれ以外の人々を教化する。

最後に、万有の主アッラーを賛美する。世界中の恵みを我々に託され、我々を唯一神を信仰するイスラームへと導き、真実の教えを保持され、最後の預言者ムハンマドﷺを遣わして下さった唯一の神を。

最後の預言者であなたの使徒ムハンマドﷺに祝福と平安あれ、そして預言者の一族とその教友たち、そして審判の日まで彼の跡を歩む者たちに平安と祝福がありますように。

万有の主アッラーに称賛あれ

www.islamic-message.net

Email: info_en@islamic-message.net

﴿سَنُرِيهِمْ ءَايَٰتِنَا فِى ٱلْءَافَاقِ وَفِىٓ أَنفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ ٱلْحَقُّ ۗ
أَوَلَمْ يَكْفِ بِرَبِّكَ أَنَّهُۥ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ شَهِيدٌ ﴿٥٣﴾﴾

「我は我が印を天と地の間において、彼ら（不信仰者）自身の中において示す。彼らにそれ（クルアーン）が真理であることが明らかになるように。本当にあなたの主はあらゆることの立証者であられる。このことだけでも十分ではないか？」

1400年も前の時代からクルアーンとハディースで述べられてはいたが、ようやく最近になって証明され始めた驚くべき科学的事実の数々。これらの事実を追いながら預言者ムハンマドﷺの預言とその教えをひもといていく。

ムハンマド・アルサイエド著

Conveying Islamic Message Society
We have sent you (O Muhammad) not but as a mercy for all creatures
None has the right to be worshipped but Allâh and Muhammad is the Messenger of Allâh
Say (O Muhammad) : O Mankind ! Verily, I am sent to you all as the Messenger of Allâh
P.o.Box 834 - Alex - Egypt
info_en@islamic-message.net :::: www.islamic-message.net